

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報

14

平成10年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2000年3月

例　言

1. 本年報は鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成10年度に行った調査活動の成果をまとめたものである。なお、桜ヶ丘団地 I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査報告を付録として掲載した。
2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。個々の調査の担当者は各章の調査報告に記述した。調査における図面・写真の担当は以下のとおりである。
2：中村直子・鮎川章子・新原和子・王力明、付録：大西智和・峰山いづみ・古澤生・陣内高志
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。
2：寒川朋枝、付録：新里貴之・雨宮瑞生・中村
製図は新里・寒川・中村が担当した。写真撮影は新里・中村が行った。
執筆は1：大西、2：中村、3：寒川、付録：大西・新里が行った。編集は中村・大西が行った。
4. 桜ヶ丘団地I・J-10区の出土遺物に関しては、陶磁器について渡辺芳郎氏（鹿児島大学）、土器について新東晃一氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、石器について雨宮瑞生氏・横手浩二郎氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）のご教授を賜った。また、南九州縄文研究会の方々に土器についての様々な所見をいただいた。
5. 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理の下、各学部、部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡 例

1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のようである。

- (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系 ($X = -158.200$, $Y = -42.400$) を基点として一辺50mの方形地区割りを行った (Fig.3参照)。
- (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系 ($X = -161.600$, $Y = -44.400$) を基点として一辺50mの方形地区割りを行った (Fig.4参照)。

2 本年報において報告を行った調査地点については、一部の立会調査地点を除き、Fig.2～Fig.4にその位置を記している。

3 本年報におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。

4 本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。

SK：土壤状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット KD：層位横転

5 2・付幅で使用した土層の色調は「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

6 遺物については観察表を作成した。その表記、表現については以下の通りである。

色調：「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。

胎土：粒子の大きさで譲（～3mm）・粗砂粒・砂粒・細砂粒・微細な砂粒に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものはその色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に1～9の9段階に分けた。9：20%以上、8：15～20%、7：15%前後、6：10～15%、5：10%前後、4：5～10%未満、3：5%前後、2：1～5%未満、1：1%以下とした。

法量：復原による法量は、()をつけた。

7 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致させた。

本文目次

1 平成10年度調査の概要	1
1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境	1
1.2 調査概要	1
2 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）試掘調査報告	5
2.1 調査にいたる経過	5
2.2 調査の体制	5
2.3 調査の経過	5
2.4 層位	5
2.5 遺構と遺物	6
2.6 調査の結果	7
3 立会調査	11
鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項	12
受贈図書一覧	14
付編 桜ヶ丘団地I・J・10区（受水槽設置地点）における発掘調査	21
1 調査に至る経過	21
2 調査体制	21
3 調査の経過	21
4 層位	21
5 遺構	22
6 出土遺物	25
7 まとめ	42

挿図目次

Fig. 1 鹿児島市の位置	1
Fig. 2 鹿児島大学構内遺跡の位置	2
Fig. 3 郡元団地構内図	3
Fig. 4 桜ヶ丘団地構内図	4
Fig. 5 トレンチ位置図	5
Fig. 6 層位断面図	6
Fig. 7 SD1平面図	6
Fig. 8 出土遺物	8
Fig. 9 98-A調査地点	11
Fig. 10 98-B調査地点	11
Fig. 11 調査区の位置 S=1/1000	21
Fig. 12 層位断面図（東壁） S=1/50	22
Fig. 13 遺構（A:2層上面・B:3層上面・C:4層上面） S=1/250	23
Fig. 14 地層横転（KD1断面） S=1/30	24
Fig. 15 住居跡（SK44） S=1/50	25
Fig. 16 遺物接合関係 S=1/120	26
Fig. 17 土器（1） S=1/3	27
Fig. 18 土器（2） S=1/3	29
Fig. 19 土器（3） S=1/3	30
Fig. 20 土器（4） S=1/3	31

Fig.21	土器 (5) S=1/3	32
Fig.22	土器 (6) S=1/3	33
Fig.23	土器 (7) S=1/3	34
Fig.24	土器 (8) S=1/3	35
Fig.25	土器・陶磁器 S=1/3	39
Fig.26	石器 S=1/3	40

表 目 次

Tab. 1	平成10年度埋蔵文化財調査室事業一覧	1
Tab. 2	層別出土遺物数	7
Tab. 3	出土遺物観察表(1)	9
Tab. 4	出土遺物観察表(2)	10
Tab. 5	石器計測表	10
Tab. 6	土壌状造構の深さ	24
Tab. 7	土器観察表(1)	36
Tab. 8	土器観察表(2)	37
Tab. 9	土器観察表(3)	38
Tab. 10	石器観察表	40

図 版 目 次

PL1	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	45
PL2	郡元団地J・K・4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査	46
PL3	郡元団地J・K・4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査	47
PL4	郡元団地J・K・4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査	48
PL5	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	49
PL6	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	50
PL7	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	51
PL8	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	52
PL9	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	53
PL10	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	54
PL11	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	55
PL12	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	56
PL13	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	57
PL14	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	58
PL15	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	59
PL16	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	60

1 平成10年度調査の概要

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり、他の三方は姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

本書に掲載する調査地点は、鹿児島大学構内の郡元団地と桜ヶ丘団地で、それぞれを、鹿児島大学構内遺跡郡元団地、同桜ヶ丘団地と呼んでいる。郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mを測る。從来から周知の遺跡として知られており、校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており、県立医大遺跡、付属中学校敷地内遺跡、釣田遺跡、水町遺跡も郡元団地内の遺跡である¹⁾。付近には弥生時代の住居跡が検出された一ノ宮遺跡が見られる。

郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見されている。現在三つの住居群が把握できている。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部、もう一つは南西部で、いずれも微高地に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川跡が確認されている。河川跡からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成9年度の工学部における調査では、弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ、構内ではまだ発見されていないが、古墳時代の包含層には多量のイネ・プラント・オバールが含まれており²⁾、稻作が継続的に行われていたことがわかる。

桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約2.5kmの亀ヶ原台地上に位置し、標高約70mを測る。昭和60年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは、「鹿児島大学構内遺跡宇宿団地」と呼称したが、キャンパス名の変更に伴い、桜ヶ丘団地と呼んでいる。付近の台地

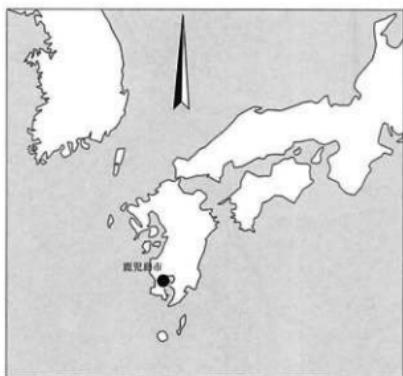


Fig. 1 鹿児島市の位置

上には、旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており、桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。また、縄文時代早期や、弥生時代中期前半の住居跡も確認されている。

1.2 調査概要 (Tab. 1)

平成10年度は試掘調査1件、立会調査3件を行っている。

註

- (1) 松永幸男 (1986). 第II章 鹿児島大学構内遺跡の位置と環境. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報.
1. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- (2) 郡元団地L-6区(中央図書館:未報告)におけるプラント・オバール定量分析の分析結果などによる。

Tab. 1 平成10年度調査一覧表

種類	調査コード	地区	調査・工事	調査期間
試掘調査	98-1	郡元団地J-K-4区	総合研究棟建設予定地における試掘調査	平成11年3月10日~30日
立会調査	98-A	郡元団地C-E-4~7区	遺伝子実験施設新営その他工事	平成10年10月5日
	98-B	郡元団地H-10区	工学部校舎新営その他機械設備工事	平成11年2月15日
	98-C	郡元団地L-4区	法文学部東屋取設工事	平成11年3月9日



Fig. 2 鹿児島大学構内遺跡の位置

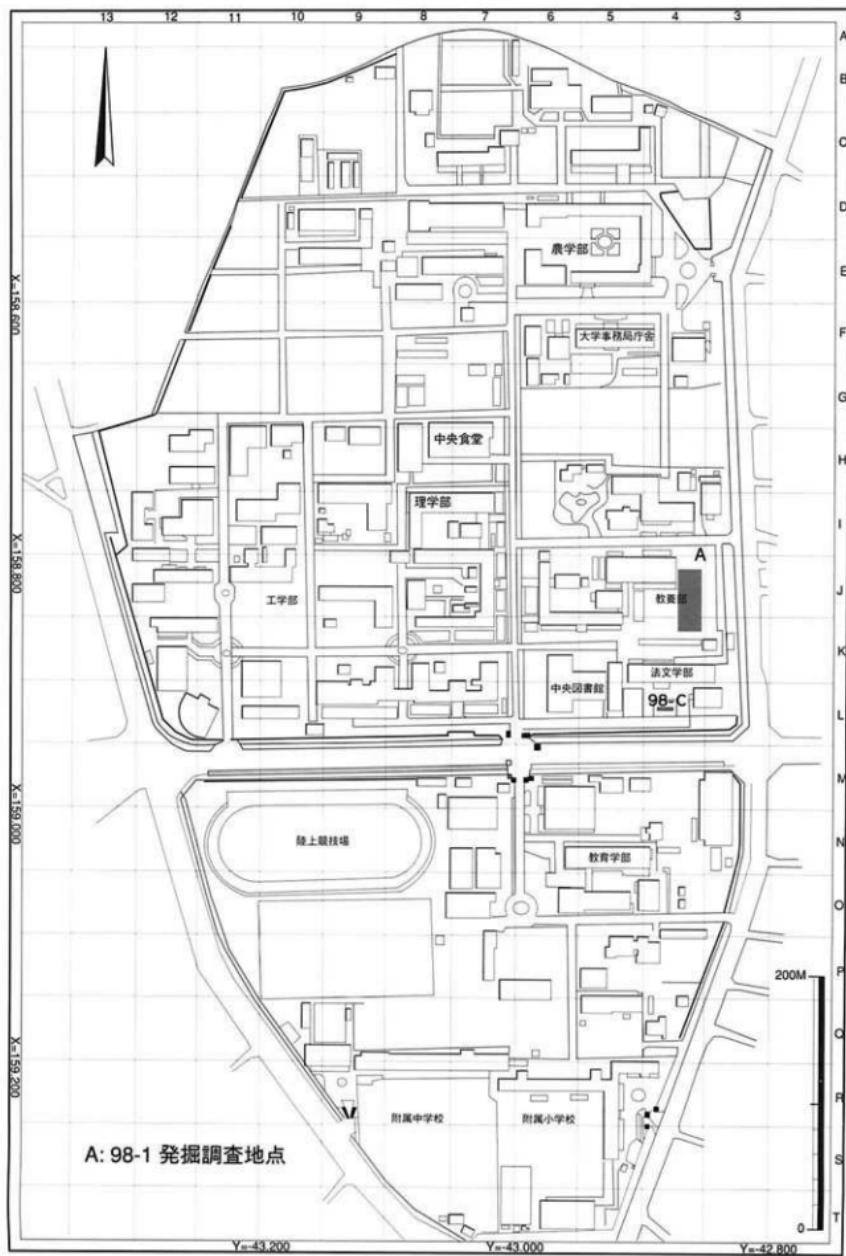


Fig. 3 郡元団地構内図 S=1/4000

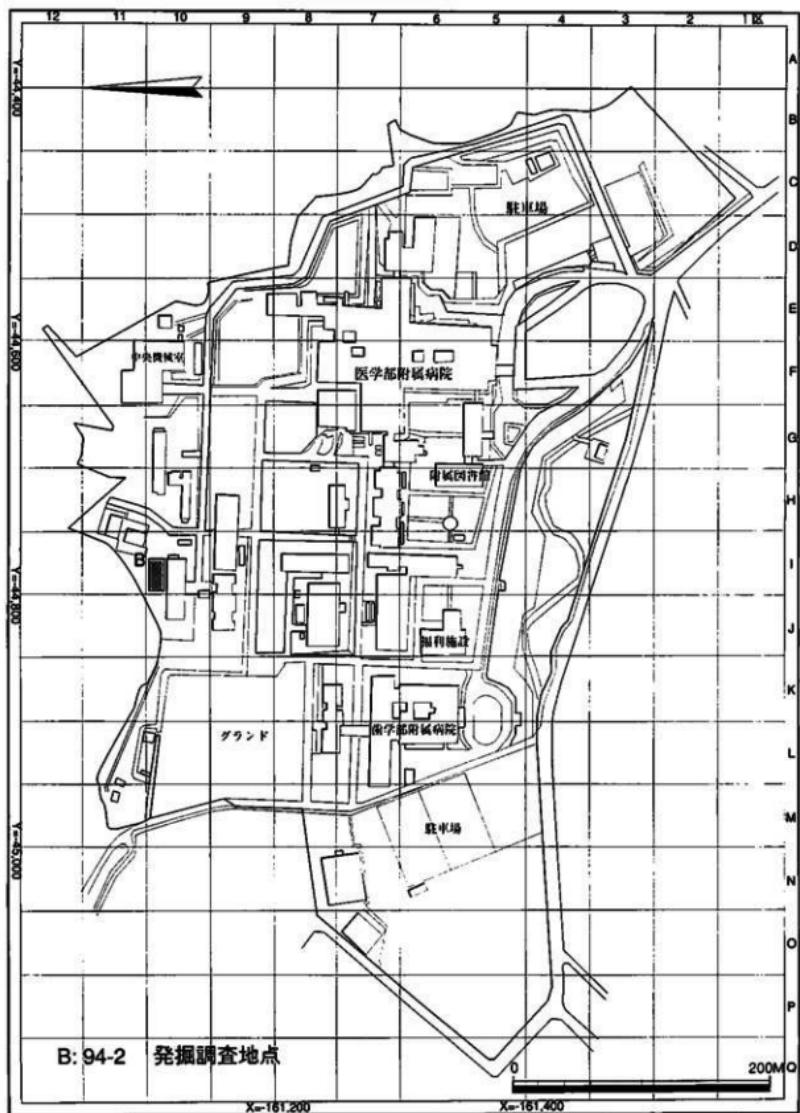


Fig. 4 桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000

2 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）試掘調査報告

2.1 調査にいたる経過

鹿児島大学では、郡元団地内に総合研究棟の建設が計画され、郡元団地の中央部、法文学部南側の駐車場がその予定地とされた。本地点は昭和50年に旧教養部講義棟の増築工事中に多量の土器が発見され、鹿児島県教育委員会によって発掘調査が行われた釣田第1地点¹⁾に隣接している。また、周辺では平成5~7年の中央図書館建設に伴う発掘調査および平成8年の法文学部防火水槽取扱工事にともなう発掘調査によつて一帯に古墳時代の住居群が密集していることが確認されている。これらのことから、本地点においても埋蔵文化財が包藏されていることが推定された。そこで、埋蔵文化財調査室では造構および遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を行うことになった。

2.2 調査の体制

発掘調査は以下の体制で行った。

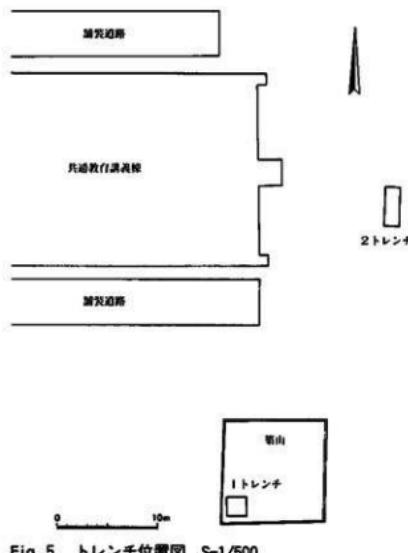


Fig. 5 トレンチ位置図 S=1/500

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 中村直子・鮎川章子・新原和子

発掘調査作業員 王力明・瀬戸口論・西庄司・矢住純子

2.3 調査の経過

試掘調査は、平成11年3月10日~3月30日にかけて実施した。総合研究センター建設予定地内に2つのトレンチを設定し(Fig. 5)、南側を1トレンチ、北側を2トレンチと呼称した。1トレンチは2×2m、2トレンチは東西1.5m×南北2mの大きさである。

1トレンチは地表下1.2mまで掘り下げたところ、古墳時代遺物包含層である7層上面に達した。7層上面には小片の土器が全面に広がっており、造構の一部である可能性が考えられた。その破壊を防ぐため、調査区南側の半分のみを掘り下げた。しかし、その下も土器片の集積が続くようであったため、10cm掘り下げたところで、調査期間の都合上、掘削を終了し、層位断面図を作成した後埋め戻しを行って調査を終了した。

2トレンチは、設定したトレンチの南北それぞれにパイプなどの埋設物があり、2トレンチ中央部1m幅のみを地表化1.1mまで掘り下げた。古墳時代の包含層である黒褐色土は7層と8層の二つに分かれ、さらに8層が下部に続いていたが、調査期間の関係上、8層上面を検出したところで掘削を終了した。また、調査区南側に東西方向にのびるパイプが埋設されており、この周囲の既掘部分のみを下まで掘り下げたところ、地山である砂層上面が地表化1.3mのところで確認できた。この時点で、層位断面図を作成し、埋め戻しを行って調査を終了した。

2.4 層位 (Fig. 6)

1トレンチ

1層 盛土。

2層 灰褐色10YR5/1。シルト質砂。2~3cm大までの軽石を少し含む。

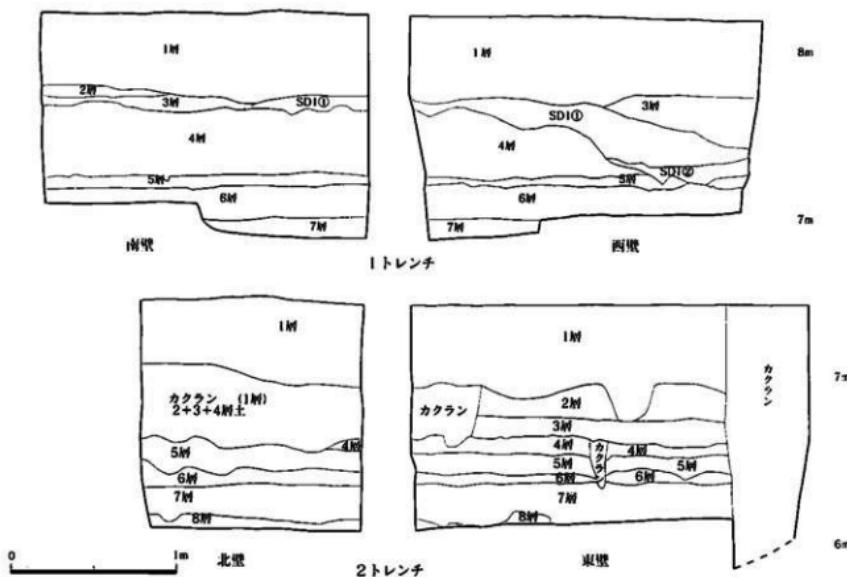


Fig. 6 層位断面図 S=1/40

3層 灰黄褐色10YR5/2。細砂層。2~3cm大まで
の軽石を少し含む。

4層 灰褐色10YR5/1。細砂層。2~3cm大まで軽
石を少し含む。

5層 黄橙色10YR7/8。細砂層。鉄分。2~3cm大
の軽石を含む。

6層 暗褐色10YR6/1。細砂層。マンガン浸透。2
~3cm大の軽石を含む。

7層 黒褐色10YR3/1。シルト。上部鉄分。

① SD1埋土。にぶい黄橙色10YR7/2細砂層。粗
砂ブロックまり。

② SD1埋土。褐灰色10Y5/1シルト質砂。まじり
10Y5/1。

2~6層までは、水田層および河川跡と考えられ
る。遺物の出土状況から、6層以下が古墳時代の
もの、2~5層までが近世及び中世の時期のもの
と推定できる。特に、7層はその上面に土器片が
集積し、10cm掘り下げてもその集積が続いていた
ため、相当量の遺物が埋設されていると推定
できる。

2トレンチ

1層 盛土。上部20cmは砂利。下部 2.5Y3/2黒
褐色を基調とし、レンガやコンクリートなどを
含む。

2層 灰黄色2.5Y6/2シルト質砂。5mm大の白色バ
ミスを少し含む。

3層 褐色10YR4/4シルト質砂。2層にマンガン浸
透。バミスを少し含む。

4層 黄褐色10YR5/6シルト質砂。鉄分を含む。
バミスを少し含む。

5層 灰黄褐色10YR5/2を基調とする。10YR5/2シ
ルト質砂。2~3cm大のバミスを少し含む。

6層 灰黄褐色10YR4/2を基調とする。シルト質
砂。マンガン浸透。2~3cm大のバミスを少し含
む。

7層 黑褐色10YR2/2シルト。鉄分浸透。

8層 黒褐色10YR3/1シルト。

9層 8層上面から20cm下に9層上面。配管カクラ
ン部壁で確認。

2~6層までは中近世の層と考えられる。また、
7・8層が古墳時代の遺物包含層である。1トレン
チの7層に対応すると考えられる。1トレンチほ
どの遺物の集積はみられないものの、やはりこの
層中から古墳時代の土器が多く出土している。

2.5 遺構と遺物

SD1 (Fig. 7)

遺構は、1トレンチ3層上面でSD1を検出した

(断面は層位断面図参照)。埋土は砂層で、二つに分層できた。トレンチを東西方向に横断する。遺構が調査区外まで広がっていたため南側の落ち際のみを確認したが、一応溝状遺構と捉えておきたい。あるいは、北側には立ちあがらず、段状の地形を呈しているものかもしれない。遺物は、埋土中から土器片が1点出土しているのみである。その下層の4層からは陶磁器が出土しており、遺構の時期は中世以降であると考えられる。

包含層出土遺物

純出土遺物数は約3500点であった。層別出土状況はTab. 2に示している。1トレンチ7層上面出土のものがもっとも多いが、小片である。Fig. 8に実測可能な38点のみ示した。

1~27は1トレンチ出土、28~38は2トレンチ出土遺物である。いずれも、層位順に示している。4~28は磁器である。5は陶器である。

15~28~30は土器部である。29は皿で非常に低い。15も皿であろう。30は杯の底部である。

1~6~9~31~32~33~34~20~21は壺の破片である。直立する口縁部20~31や絡繆突帯32などの特徴は笠貫式のものであると考えられる。7は胴部と脚部がその接合部分で欠損しているものである。21は内面に、布目压痕のような痕が認められるが、非常に細かく細いため、確定はできない。

10~12~22~23~35は壺である。胴部突帯は刻み目を持ち、布目压痕が認められるものもある(11)。12は底部片だが、内面にハケ工具刺突痕がX状に交差している。小片のため、調整痕なのか、何か模様や記号を意識したものなのかなは不明である。22は底面が分厚い平底だが、23は少し尖り気味の丸底である。

2~13~24~25~36は高杯の破片である。いずれも赤色顔料が外面に付着している。2は脚

部の上部で、杯部との接合部付近で欠損している。13は杯部下部で、やはり接合部で欠損している。24~25~36は脚端部である。先端が細くとがるものと、端部に面をもつもの2種類がみられる。

14~26~37~38は壺の破片である。37は口縁部で、内湾する器形を呈する。他は胴部屈曲部である。いずれも、外面に赤色顔料が付着している。

16~18は須恵器である。16は少し湾曲気味に聞く、壺の頸部であると推定できる。口縁部は欠損しているが、残存状況から、端部が肥厚する器形を呈すると推定できる。17は壺の頸部である。18はハソウの胴部で、穿孔部1/3を残して欠損している。また、外面には2条の沈線とそれらに挟まれた櫛描波状文が施されている。

19~27は石器である。19は破損している部分が多いが、上面と右側面に磨面が認められる。砥石であろう。27は磨製石斧の破片である。刃部がわずかに残存している。刃部には細かい擦過痕が表裏面とも認められる(図中矢印)。側面には、製作時のタタキ痕が残っている。

2.6 調査の結果

試掘調査の結果、調査区一帯には上部には中世のものと考えられる水田層や遺物包含層が複数枚広がり、その下に古墳時代の遺物包含層が40cm以上の深さで広がっていることが確認された。特に、1トレンチでは包含層中から多くの遺物が出土している。周辺は、発掘調査や配管工

Tab. 2 層別出土遺物数

	トレンチ	層:遺構	土器	陶磁器	瓦	石器
1		1	16			
		4	27	7		
		5	22			
		6	829			4
		7	1241			12
	SD1		1			
2		1	10			
		2	23	3	1	
		3	7			
		4	1			
		5	117			
		6	423			
		7	806			
	SD2		1			

* 数値は破片数

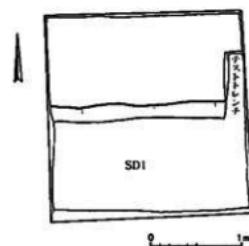


Fig. 7 SD1平面図 S=1/50

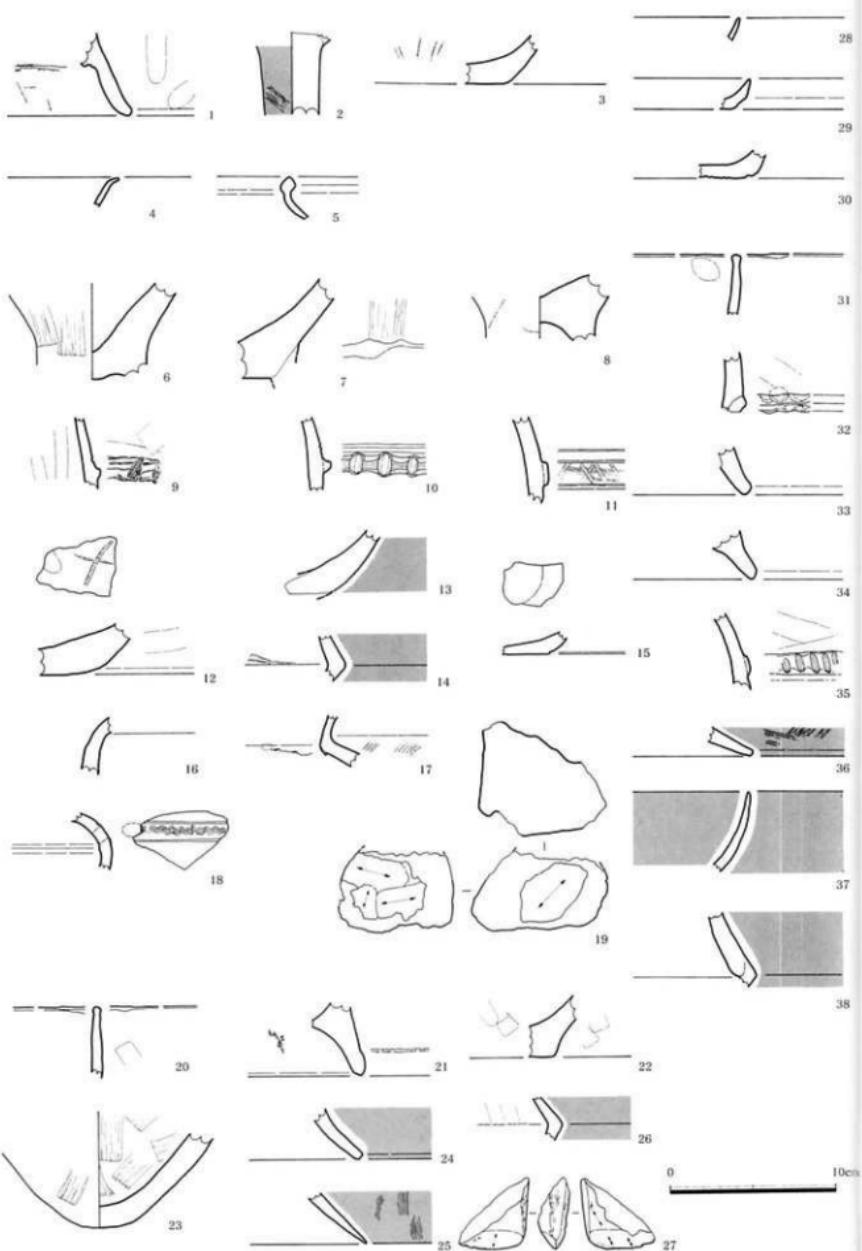


Fig. 8 出土遺物 S=1/3

Tab. 3 出土遺物觀察表（1）

トレンチ	層	種別	器種	部位	色調・特徴	地上						調整・文様	備考
						赤色粒	白色粒	石英	黑色粒	多孔	その他		
1	1	土器	甕	脚部	外面:にじ・褐色SYR8/4、砂粒・細砂・砂粒 内面:褐色2.5YR8/6	砂粒・細砂・砂粒	砂粒・細砂・砂粒	砂粒・細砂	3	白色粒少 ない	外側:暗ナデ、内面: ハケ打ち込みあり		
2	1	土器	高杯	脚部	外面:赤色10R8/2、裏面:に 細砂粒 内面:褐色7.5YR7/3	砂粒・細砂・砂粒	砂粒・細砂・砂粒	砂粒・細砂	3	赤色粒少 ない	ミガキ?	外側:赤色顔料付 り、堅誠している。	
3	1	土器	甕	底部	外面:にじ・褐色 SYR8/3.5/4、裏面:褐色 5.5YR8/1.1/PN:褐色 SYR8/6	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂・砂粒	砂粒・細砂	4	石英丸 のあり	外側:ナデ、内面: ハケのちナデ、		
4	1	器類	口縁部	透明釉	口縁部	透明釉				白色	邊縫、 輪縫、		
5	1	陶器	口縁部	透明釉	透明釉	透明釉				灰青色	10R8/2	外側:ハケのちナデ、 内面:ナデ、	
6	1	土器	甕	脚台	外面:浅灰色10YR8/2.8、 黄褐色10YR7/2、内面: 灰褐色10YR8/2.4/2、黄 褐色5.5YR8/6	細砂粒	暗~細砂 粒	砂粒・細砂	5	半赤色少 ない、丸い 石英	外側:ハケのちナデ、 内面:ナデ、		
7	1	土器	甕	脚台	外面:内面:浅褐色 10YR8/3.5/4、裏面:褐 色10YR5/1	細砂粒~ 細砂粒	砂粒	砂粒・細砂	3	墨端石 かく?	外側:ハケのちナデ、 脚部の接着痕明 顯。		
8	1	土器	甕	脚台	外面:浅褐色7.5YR8/6、 裏面:褐色 7.5YR8/2	粗砂粒・砂 粒	砂粒・細砂・砂 粒	砂粒・細砂	5		ハケ有ナデ、 堅誠している。		
9	1	土器	甕	脚部	外面:にじ・褐色 10YR7/2、裏面:褐色 10YR2/1、内面:にじ・褐 色7.5YR8/6	砂粒	砂粒・細砂	砂粒	3		外側安突付近:白い 突起あり、刻み目 コナギ、内面:ハケ? 布目庄底、		
10	1	土器	甕	脚部	外面:褐色 7.5YR8/1.5/3、裏面: 褐色 7.5YR8/6	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂	3		外面安突付近:白い 突起あり、コナギ、 地:ナデ、		
11	1	土器	甕	脚部	外面:にじ・褐色SYR8/4、 内面:明褐色SYR8/5	砂粒	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂	5	斑を少し含 む。	外側安突付近:ロコマ 地、他:ナデ、 布目庄底、		
12	1	土器	甕	近部	外面:褐色 7.5YR8/6、裏 面:SYR8/2、内面:褐 色 SYR8/6	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂 砂粒	砂粒	2	細砂粒多 い、	内面:ハケ日影現 り、他:ナデ、		
13	1	土器	高杯	外面:にじ・褐色SYR8/4、 内面:明褐色SYR8/2、 灰褐色7.5YR8/6、裏 面:SYR8/5、内面:褐 色 SYR8/4	細砂粒	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂	砂粒	2		外側:堅誠のため不 明、内面:ナデ、 外側:赤色顔料付 り、堅誠否しい。		
14	1	土器	甕	脚部	外面:明褐色2.5YR8/6、 砂粒・細砂 砂粒	暗~細砂 粒	砂粒	砂粒	1		外側:ミガキ? 内面: 外側:ハケのちナデ、 外:赤色顔料付 り、		
15	1	土器	甕?	近部	外:褐色SYR8/6、裏面: 褐色 2.5YR8/6	細砂粒~ 細砂粒	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂	1	半透明の 輪縫ナデ?	堅誠している。		
16	1	須恵器	盤	脚部	外面:内面:灰色N6、裏面: 褐色N6	砂粒	砂粒	砂粒	2	半透明の 輪縫ナデ、 白色粒			
17	1	須恵器	盤	脚部	外面:裏面:内面:灰色N6	砂粒	細砂粒	砂粒・細砂	1	石英?	輪縫ナデ、外面堅誠:		
18	1	須恵器	ハツク	脚部	外面:灰色N5、裏面:灰 色N5R5/4、内面:灰色 N5R5/4	細砂粒	細砂粒	砂粒	1	石英?	輪縫ナデ、 穿孔あり、外側:波 状紋化あり、		
20	1	土器	甕	口縁部	外:褐色SYR2/1、裏 面:褐色SYR8/4、内面: 褐色 2.5YR8/1.5/3、内面:褐 色 2.5YR8/6	砂粒	砂粒	砂粒・細砂 砂粒	3	半赤色・白 色粒少	ナデ、端部:ユビオサ エ明縫、 外側:赤色顔料付 り、		
21	1	土器	甕	脚部	外:褐色SYR2/1.5/4、 内面:にじ・褐色 2.5YR7/3.7/4、内面:褐 色 2.5YR8/6	砂粒(少)	細砂粒~ 細砂粒	砂粒・細砂 砂粒	5		外側:ハケ打 込み、ハ ケル打込み明 顯、内面:ナデ、脚 台上面に布目庄底 あり、		
22	1	土器	甕	近部	外:浅白色7.5YR8/2、 内面: 褐色7.5YR8/4、裏面: 褐色 2.5YR8/1.5/3、内面:褐 色 2.5YR8/4	砂粒	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂	5		ハケのちナデ、 外:赤色顔料付 り、		
23	1	土器	甕	近部	外:浅褐色10YR8/3、 内面:にじ・褐色 10YR7/2、裏面:褐色 10YR8/1	細砂粒 (少)	細砂粒	細砂粒	2		ハケのちナデ、 外:赤色顔料付 り、		
24	1	土器	高杯	脚部	外:褐色SYR8/6、裏面: 褐色 2.5YR8/4、内面: 褐色 2.5YR8/3	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂 砂粒	砂粒・細砂	3		ナデ、 外:赤色顔料付 り、		
25	1	土器	高杯	脚部	外:褐色SYR8/6、 内面: 褐色 2.5YR8/4、内面: 褐色 2.5YR8/1	砂粒・細砂 砂粒	砂粒	砂粒・細砂	2		外側:ハケ打撃方 向のほか、内面:ナデ、 0.		
26	1	土器	甕	脚部	外:褐色SYR8/6、内面: 褐色 2.5YR8/4、内面: 褐色 2.5YR8/1	砂粒	細砂粒		2		内面:ハケ打撃込 み、 外:赤色顔料付 り、		
28	2	土器	甕	口縁部	輪縫、只底:盛・直 輪縫					白色	輪縫、 發付け、		

Tab. 4 出土遺物観察表 (2)

トレンチ	層	器種	部位	色調・輪郭	第7					調整・文様	図号
					赤褐色	白色	石英	黑色	多孔		
23 1 7	土器	表	底部	外表面:深褐色 内面:灰褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	2	ハケのちナデ。	
24 1 7	土器	高杯	脚部	内に灰褐色 外表面:10YR 4/8, 境 内面:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	3	ナデ。	外表面:赤色顔料 付着。
25 1 7	土器	高杯	脚部	外表面:10YR 4/8, 境 内面:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	2	外表面:ハケ後擦方 向の方向、内面:付着。	外表面:赤色顔料 付着。
26 1 7	土器	埋	脚部	外表面:10YR 4/8, 境 内面:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	2	内面:ハケ打ち跡 み。	外表面:赤色顔料 付着。
28 2 7	罐	表?	口縁部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	1	施施。	施付け。
29 2 2	土師器	底	~底部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	1	回転ナデ?	草城吉い。
30 2 2	土師器	底部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	1	回転ナデ。底面:	底付。	
31 2 7	土器	表	口縁部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	2	ナデを少し含むナデ。	
32 2 7	土器	表	脚部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:10YR 4/8, 境 底色:5YR 4/4	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	2	ハケのちナデ?	安藤あり。外 面:底付。
33 2 7	土器	表	脚部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:5YR 4/6	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	3	ナデ。上部裏面に 草城している。 接合痕あり。	
34 2 7	土器	表	脚部	外表面:灰褐色 内面:灰褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:5YR 4/6	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	3	内面:ハケ? のち 草城している。 ナデ。地:ナデ。	外表面:底付。 ナデ。地:ナデ。
35 2 7	土器	表	脚部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:5YR 4/6	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	3	ナデ。	外表面:赤色顔料 付着。
36 2 7	土器	高杯	脚部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:5YR 4/6	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	1		
37 2 7	土器	埋	口縁部	外表面:暗褐色 内面:暗褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:5YR 4/6	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	1	ヒガキ。	赤色顔料付着。
38 2 7	土器	埋	脚部	外表面:明褐色 内面:灰褐色 色:10YR 4/8, 境 外輪:10YR 4/8, 境 内輪:5YR 4/6	砂粒	砂粒	砂粒	砂粒	1	ナデ。	外表面:赤色顔料 付着。

Tab. 5 石器計測表

№	トレンチ	層	器種	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)
19	1	6	砥石	7.05	4.8+α	8.2
27	1	7	石斧	4.4+α	4.3+α	1.95+α

事による立合調査によって、密集する住居跡群や層厚50cm以上に及ぶ遺物包含層、住居跡や溝状造構から土器溜りなどが確認されている。これらを総合すると、中央図書館から北側は住居跡が密集している地点である。

その中でも、1トレンチ7層上面で確認したような密集した遺物の出土状況は稀であり、多くの住居跡群とそれに伴う多量の遺物の存在が推定できる。

これらのことから、本地点においては十分な埋蔵文化財への配慮が必要であろう。

文献

- 「付編、釣田第一地点(鹿児島大学教養部)遺跡発掘調査報告—遺構および遺構出土遺物編一(昭和50年度 鹿児島県教育委員会文化課調査)」「南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究」鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 1992

「釣田第一地点(鹿児島大学教養部)遺跡発掘調査報告—住居址出土遺物の概要一(昭和50年度 鹿児島県教育委員会文化課調査)」平成6年度教育研究学内特別経費研究成果報告書 1995 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

3 立会調査

埋蔵文化財調査室では、平成10年度3件の立会調査を実施した。以下、各調査ごとに説明する。

98-A 鹿児島大学（郡元）遺伝子実験施設新築その他工事に伴う立会調査

遺伝子実験棟建設地周辺の樹木移植に伴い、掘削が行われた。A地点は樹木抜き取り地点であるが、表土の範囲内であり埋蔵文化財への影響はなかった。樹木移植地点であるB・C・D地点は、いずれも表土の範囲で埋蔵文化財に影響はなかった。

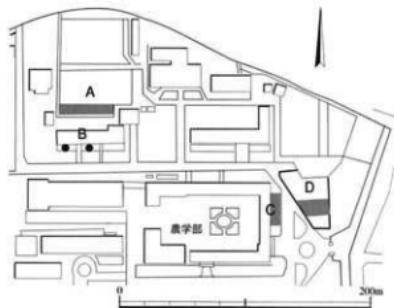


Fig. 9 98-A調査地点

98-B 鹿児島大学工学部校舎新築その他機械設備工事に伴う立会調査

工学部機械設備工事に伴い、受水槽の周囲に幅60~80cm、深さ60~80cmの溝状の掘削を行った。土層は表土の下に30cmほど客土がみられ、非常に堅く瓦などが混じっていたが、遺物は出土していない。



Fig.10 98-B調査地点

98-C 鹿児島大学法文学部東屋取設工事に伴う立会調査

法文学部南側の中庭ベンチ設置 (Fig.3) のため、掘削工事が行われた。深さ30cm ほどで、埋蔵文化財への影響はなかった。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

(1) 基本計画の策定に関すること。

(2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学長

(2) 各学部長、附属図書館長、医学部附属病院長
および歯学部附属病院長

(3) 事務局長

(4) 学生部長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聽くことが出来る。

(調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

(3) 第13条に規定する調査室の予算に関すること。

(4) その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

(1) 各学部の教授、助教授、講師の中から選任された者各1名

(2) 第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任

期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聽くことができる。

(調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

(1) 調査実施計画の立案

(2) 発掘調査、分布調査及び確認調査

(3) 調査報告書の作成

(4) その他必要な事項

第15条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

1 この規則は、昭和60年4月18日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和51年1月22日制定）は、廃止する。

付則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成 10 年 4 月 1
日現在）

委員長 田中弘允（鹿児島大学学長）
委 員 石田忠彦（法文学部長）
坂尾 隆（教育学部長）
堀田 満（理学部長）
大井好忠（医学部長）
平 明（医学部付属病院長）
笠原泰夫（歯学部長）
井上昌一（歯学部付属病院長）
赤坂 裕（工学部長）
堀口 敏（農学部長）
市川英雄（水産学部長）
小澤貴和（連合農学研究科長）
飛田眞澄（事務局長）
野崎 勉（学生部長）
山下 智（附属図書館長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成 10 年
4 月 1 日現在）

委員長 塚原潤三（理学部教授）
委 員 渡辺芳郎（法文学部助教授）
日隈正守（教育学部助教授）
秋山伸一（医学部教授）
小片丘彦（歯学部教授）
行田尚義（工学部教授）
松元光春（農学部助教授）
山中有一（水産学部講師）
上村俊雄（調査室長併任 法文学部教授）
鹿児島大学埋蔵文化財調査室
室長（併） 法文学部教授 上村俊雄
主任（併） 法文学部助手 中村直子
(併) 法文学部助手 大西智和
技術補佐員 黒川章子
技術補佐員 新原和子

受贈図書目録 (1998年4月1日~1999年3月31日)

書名	発行所	書名	発行所
舉行本			
道場出土の動物遺物/体に関する基礎的研究 平成7~8年度	いわき短期大学幼児教育科・助教授 山崎京美	上高田市立高木原ふるさと歴史の広場年報 第4号(平成9年度)	上高田市立高木原ふるさと歴史の広場
公園セミナー記録集「用田ハイハス園道跡公園ローム河中出土品の炭化材」(昭和27年の往古遺跡を復元)	神奈川県立理研文化財センター	財團法人君津都市文化財センター 広報誌 まきさら第12.13号	財團法人君津都市文化財センター
公園セミナー記録集「用田ハイハス園道跡公園ローム河中出土品の炭化材」(昭和27年の往古遺跡を復元)	財團法人かながわ考古学財団	財團法人君津都市文化財センター 年報vol.4.15	財團法人君津都市文化財センター
名古屋市博物館研究紀要 第21巻 研究実行旅 門崎 鹿児島(1998年度研究実行旅パンフレット)	名古屋市博物館	千葉県立古墳土器の丘年報20 -平成8年度-	千葉県立古墳土器の丘
高橋忠介より直島英 大阪市文化財会 研究紀要 別冊	京都大学文学研究科考古学研究室	青山学院大学文学部 史学研究室 東京国立大学考古学研究室	東京国立大学考古学研究室
自然科学研究所研究報告 第23号	岡山理科大学	東京都立文部省文化財センター年報 18 1997(平成9年度)	財團法人東京都教育文化財団 東京都理研文化財センター
自然科学研究所研究報告 第23号	岡山理科大学	資料叢書 10 神奈川県立理研文化財センター 年報6	東京都立文部省文化財センター 神奈川県立理研文化財センター
牛窓町史料編 考古	牛窓町	神奈川県立理研文化財センター 年報7	神奈川県立理研文化財センター
古代遺跡文化展	古代山田川文化展実行委員会	かながわ考古学財団 年報5 平 成9年度	かながわ考古学財団
古代遺跡の文化	上田正義 岩根町古代文化センター	埋文とやまと 第60-62号 企大考古 第27号	富山県理研文化財センター 企大考古学講座 福井県立博物館
出雲山田風土記論 古代分化研究	朝山晴 岩根町古代文化センター 鳥根町古代文化センター	FUKUOKA PREFECTURAL MUSEUM NEWS No.34 かかみがはらの埋文 第61号 多治見市文化財保護センターだよ り 自然と人の文化 13.14 研究所報 No.71	各務原市理研文化財センター 多治見市文化財保護センター
研究紀要		研究所報 No.72	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
いわき市教育文化事業研究紀要 第10号 1998 歴史人蔵 第26号	財團法人いわき市教育文化事業團 筑波大学歴史・人類学系	研究所報 No.73	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
君津都市文化財センター研究紀要 Ⅴ	財團法人君津都市文化財センター	研究所報 No.74	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
大田区立博物館紀要 第8号	大田区立博物館	研究所報 No.75	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
群馬県立歴史博物館紀要 第19号 研究紀要 3 かながわの考古学	群馬県立歴史博物館	研究所報 No.76	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
金沢大学考古学紀要 第24号	神奈川県立理研文化財センター	研究所報 No.77	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
福井県立博物館紀要 第7号	財團法人かながわ考古学財団	研究所報 No.78	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
静岡県理研文化財調査研究所 研 究紀要 第6号 1998	福井県立博物館	静岡県理研文化財調査研究所 年 報10(平成9年度事業概要)	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
研究紀要 第6号	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所	研究所報要一平成10年度	財團法人静岡県理研文化財調査研 究所
研究紀要 第7号 -上野源輔成 就と古代土器の生産と流通-	三重県理研文化財センター	名古屋市博物館により 121.122.124-126	名古屋市博物館
地域文化研究 地域文化研究紀 要13	海光女子学院大学	三重県文化財センター通報 みえ No.23-26	三重県理研文化財センター
ミュージアム知覚紀要 第4号	ミュージアム知覚	三重県理研文化財年報 平成9年 度	坂田市社会教育研究会文化財部会
萩谷村立歴史民俗資料館紀要 第 21号	萩谷村立歴史民俗資料館	坂田市文化財ニュース 佐加太 第8.9号	滋賀県理研文化財センター
萩谷村立歴史民俗資料館紀要 第 22号	萩谷村立歴史民俗資料館	滋賀県文ニュース 第216-226号 京都府理研文化財情報 第67号	財團法人京都府理研文化財調査研 究センター
選次刊行物		京都府理研文化財情報 第68号	財團法人京都府理研文化財調査研 究センター
吉小牧だより	若狭市文化センター	京都府理研文化財情報 第70号	財團法人京都府理研文化財調査研 究センター
チエタ 第3号 北海道理研文化 財センターだより	北海道理研文化財センター	京都市考古資料館年報 平成5. 6年度	京都市考古資料館
東北大學理研文化財調査年報9	東北大學理研文化財調査研究セン ター		
東北大學理研文化財調査年報10	東北大學理研文化財調査研究セン ター		
いわき市教育文化事業團 年報9 平成9年度	財團法人いわき市教育文化事業團		
上高田市高木原ふるさと歴史の 広場年報 第3号(平成8年度)	上高田市高木原ふるさと歴史の広場		

書名	発行所	書名	発行所
京都市考古資料館年報 平成7.8年度	京都市考古資料館	コンピュータ・グラフィックスで見る 頂高山遺跡	神戸市教育委員会
京都大学構内遺跡調査年報 1994年度	京都大学理系文化財研究センター	調査報告書	千葉市教育委員会
ひらかた文化財大より第35-37号	財團法人枚方市文化財研究調査会	千葉市文化財調査報告書XXV、牛ウス5遺跡における考古学的調査	青木牧市教育委員会 若木牧市理系文化財センター
大阪市文化財情報誌 72-73号	財團法人大阪市文化財研究会	美浜区遺跡部	岩手県教育委員会
枚方市文化財年報19(1997年度分)	財團法人枚方市文化財研究調査会	岩手県内道路充填調査報告書(平成7年度)	岩手県教育委員会
高岡市文化財年報 平成8年度	高岡市教育委員会	国吉田古墳、城輪古墳	鶴岡市教育委員会
TU BOTTORI 都路市埋蔵文化財調査報告 平成8年度	都路市埋蔵文化財調査委員会	史跡城輪古墳 (1991)	鶴岡市教育委員会
兵庫県埋蔵文化財情報誌 ひょうごの道路 29-31号	兵庫県教育委員会	史跡城輪古墳 (1990)	鶴岡市教育委員会
平成7年度(神戸)市埋蔵文化財年報	神戸市立埋蔵文化財研究室	仙台市文化財調査報告書第221集 宮城県泉崎町山口遺跡 (1)	仙台市教育委員会
城都研究年報	鳥取県立城都研究室	仙台市文化財調査報告書第229号 原遺跡	仙台市教育委員会
島根県の埋蔵文化財情報誌 ドキ上郡巣立ふるい作・秋	鳥取県埋蔵文化財調査センター	平成10年度充填調査報告書 平塚 湯河原古墳、生石周辺遺跡	いわき市教育委員会 財團法人いわき市教育文化事業団
新報 吉井 25号	岡山県古代吉備文化財センター	茨城県教育財團文化財調査報告書	住吉市農業公園・首都圏都市開発本部 財團法人茨城県教育財團
岡山大学構内遺跡調査研究年報 15 1997年度	岡山大学理系文化財調査研究センター	123集	茨城県教育財團文化財調査報告書
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告20号	岡山大学理系文化財調査研究センター	124集	神津遺跡
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報告21号	岡山大学理系文化財調査研究センター	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
古賀理系文化財センター年報4 平成8年度	貞島理系文化財センター	125集 西方貝塚	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
いぶき No.23	庄島教育委員会	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
壁紙 第20-22号	庄島立歴史民俗資料館 みよし 風土記の丘	126集 埼玉県内道路	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
栄光女子学院大学 地域文化研究所 通志No.23	栄光女子学院大学地域文化研究所	127集 高峰遺跡 前田遺跡 D、F区	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
まいぶん えひめ No.2	財團法人愛媛県理系文化財調査センター	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
日本歴史資料館より 温故 10.14.16.24.28!	日本歴史資料館	128集 安田川高井遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
平成9年度 福岡市埋蔵文化財センター年報1 第17号	福岡市教育委員会	129集 鹿嶋遺跡 古墳古墳 現生遺跡 南小野遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
大分県埋蔵文化財年報6 平成8年度版	大分県教育委員会	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
Funal V	大分県歴史資料館	130集 池田遺跡 佐賀古墳群 三輪山遺跡 成田古墳群	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
Funal VI	大分県歴史資料館	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
Funal VI 内府及び大友氏埋蔵 遺跡調査研究年報IV	大分県歴史資料館	131集 大内山遺跡 和佐才佐遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
大分県埋蔵文化財年報6 平成8 年度版	大分県歴史資料館	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
大分県埋蔵文化財年報6 平成8 年度版	大分県歴史資料館	132集 波山遺跡 古風散遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
大分県埋蔵文化財年報6 平成8 年度版	大分県歴史資料館	133集 鶴見山遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
おおいた壁紙 1.2	大分県立歴史博物館	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
埋蔵文化財通じみやざき 第2号	宮崎県埋蔵文化財センター	134集 関原山遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
埋蔵文化財通じみやざき 第3号	宮崎県埋蔵文化財センター	茨城県教育財團文化財調査報告書	日本道路公团東京第一建設局 財團法人茨城県教育財團
宮崎県埋蔵文化財センター年報 平成8年度創刊号	宮崎県埋蔵文化財センター	135集 美伎遺跡 後山原遺跡	日本道路公团東京第一建設局 財團法人茨城県教育財團
埋文化 第16号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
鹿児島文化 第62.64.65号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	136集 大内山遺跡 大隈遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
南日本文化 第31号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
川内山歴史資料館年報 平成8年 度	川内山歴史資料館	137集 石見山遺跡 中の台遺跡	建設省鉄道局人茨城県教育財團
資門館により No.31	越谷市立歴史民俗資料館	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
成谷市立歴史民俗資料館年報 第 22号	成谷市立歴史民俗資料館	138集 八丁子遺跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
成谷市立歴史民俗資料館年報 第 23号	成谷市立歴史民俗資料館	茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
埋蔵文化財発掘調査ニュース No.7	那珂市教育委員会	139集 中井子遺跡 I	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
安治内宿古跡群		茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
		140集 木工寺遺跡 I	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
		茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
		141集 宮ヶ瀬城跡	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
		茨城県教育財團文化財調査報告書	茨城県教育財團法人茨城県教育財團
		142集 高峰中台道路	住吉・都市景観公園茨城県地域社会 財團法人茨城県教育財團
		茨城県教育財團文化財調査報告書	住吉・都市景観公園茨城県地域社会 財團法人茨城県教育財團
		143集 堀川遺跡 前原遺跡 柏原遺跡	住吉・都市景観公園茨城県地域社会 財團法人茨城県教育財團
		茨城県教育財團文化財調査報告書	住吉・都市景観公園茨城県地域社会 財團法人茨城県教育財團
		144集 安政古墳群 大安寺子遺跡 I	住吉・都市景観公園茨城県地域社会 財團法人茨城県教育財團

書名	発行所	書名	発行所
東京都埋蔵文化財調査報告第 145号 下り造跡 岩内造跡	造跡財團法人東京都埋蔵文化財調査委員会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第50集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第 146号 前川山遺跡 G・H・I・K	東京都埋蔵文化財調査委員会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第51集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第 147号 岩内山遺跡 J・K・K	東京都埋蔵文化財調査委員会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第52集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第 148号 岩内山遺跡 船戸山遺跡 小 原遺跡	東京都埋蔵文化財調査委員会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第53集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第 149号 鷺の山遺跡 上下巻	日本道路公团東京第一建設局 財 團法人東京都埋蔵文化財調査委員会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第54集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第 150号 华山遺跡 東平造跡 板 ノ上跡	住友・都市整備公団地域地城支社 財團法人東京都埋蔵文化財調査委員会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第55集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター 東京 都教育委員会
東京都埋蔵文化財調査報告第 151号 宮沢寺子道跡 2	七郷市教育委員会 上総市造跡調 査会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第56集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
月川山遺跡認定報告書	土浦市教育委員会 七郷市造跡調 査会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第57集 土浦上屋敷跡	東京都埋蔵文化財センター
板東北造跡 楠山遺跡	上総市教育委員会 上総市造跡調 査会	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第58集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
神明遺跡	小堀富大 財團法人君津都市文 化センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第59集 羽鳥造跡	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第126集 外宮餘 造跡 II	株式会社丸越 財團法人君津都市 文化センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第60集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第139集 横川遺 跡、寺ノ下遺跡	有限会社芝崎 財團法人君津都市 文化センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第61集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第140集 櫛古遺 跡	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第62集 三野井遺跡 I・2	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第63集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第142集 先史遺 跡IV	君津市 財團法人君津都市文化 センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第64集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第143集 横川遺 跡	湘ヶ崎市 財團法人君津都市文 化センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第65集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第144集 百百目 木B・C 清水木天井跡	湘ヶ崎市 財團法人君津都市文 化センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第66集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第145集 谷ノ台 遺跡	君津市 財團法人君津都市文化 センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第67集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第146集 富代遺 跡II	君津市 財團法人君津都市文化 センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第68集 三野井遺跡 III	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第147集 山谷遺 跡(II)	株式会社主膳の店 財團法人君津 都市文化センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第69集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人君津都市文化財センター 発掘調査報告書第148集 上泉造 跡 I 上ノ山遺跡	油ヶ崎市 財團法人君津都市文化 センター	東京都埋蔵文化財センター調査報 告第70集 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第149号 大道遺跡	八日市場市教育委員会 財團法人 東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第3	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第150号 駒込城跡	財團法人東京都埋蔵文化財センター	武藏野市埋蔵文化財調査報告第2 武藏 野市埋蔵文化財調査報告書	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第151号 駒込城跡	千葉県八日市場市都市基盤 財團法 人東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第4	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第152号 駒込城跡	東京電力株式会社 財團法人東都 市埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第5	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第153号 駒込城跡	八日市場市教育委員会 財團法人 東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第6	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第154号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第7	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第155号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第8	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第156号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第9	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第157号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第10	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第158号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第11	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第159号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第12	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第160号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第13	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第161号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第14	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第162号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第15	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第163号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第16	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第164号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第17	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第165号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第18	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第166号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第19	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第167号 駒込城跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第20	武藏野市教育委員会
財團法人東京都埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第168号 長治台遺跡	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第21	武藏野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報 告第44号 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第22	武藏野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報 告第45号 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第23	武藏野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報 告第46号 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第24	武藏野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報 告第47号 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第25	武藏野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報 告第48号 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第26	武藏野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報 告第49号 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第27	武藏野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報 告第50号 多摩ニュータウン道路	東京都埋蔵文化財センター	東京都井の頭遺跡跡 平成10年 度武藏野市文化財調査報告第28	武藏野市教育委員会

書名	発行所	書名	発行所
かながむ考古学財団調査報告34 東宮跡・杉ノ道跡・上柏原・川上 道跡・上柏原跡・川上道跡・東宮 跡・北山道跡・上柏原・(本松 道跡)	財團法人かながむ考古学財団	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第95号 小笠山砦合戦跡公園 内遺跡群	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
かながむ考古学財団調査報告35 下大根塚道跡	財團法人かながむ考古学財団	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第96号 中峠道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
かながむ考古学財団調査報告36 池子道跡VI	財團法人かながむ考古学財団	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第97号 長幡平道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
かながむ考古学財団調査報告40 宮ヶ瀬遺跡群VII	財團法人かながむ考古学財団	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第98号 大平道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
かながむ考古学財団調査報告44 池子道跡VIII	財團法人かながむ考古学財団	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第99号 上ノ道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
先人たちの歩み 宮ヶ瀬遺跡群見 聞講話の記録	財團法人かながむ考古学財団	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第100号 地中道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
神奈川県埋蔵文化財調査報告40 小田原市越後・吉田・沼田	神奈川県教育委員会	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第101号 湘南・立石	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
神奈川県立井野 塩本文久保台道 跡	松本文久保台道跡調査組	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第102号 川向山道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
神奈川県伊勢原市 上柏原・(本 松道跡)	上柏原・三本松道跡調査組	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第103号 豊岡川流域道跡群 IV・中尾遺跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
越後郡埋蔵文化財調査報告5 上 上柏原道跡第3次調査	越後郡教育委員会 上上柏原道跡充 足調査組	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第105号 小袖道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
神奈川県立井野 境大坂道跡 長野県埋蔵文化財調査報告観察 その8	中井境大坂道跡調査組	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第106号 田崎山道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
羽原・本松道跡 御前山道跡	長野県立井野町教育委員会	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第107号 高丘山道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
曾我道跡	長野県立井野町教育委員会	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第108号 郡山之上道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
岐阜県埋蔵文化財保護センター調査報 告書第47号 城ヶ原7号墳・竹 山城跡	長野県立井野町文化財保護センタ ー	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第109号 明日野道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
佐原大塚古墳 第6次発掘調査実 施地調査報告	多治見市立岐阜県文化財保護センタ ー	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第110号 木掛古墳群C群 (御所野地区)	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
岐阜県埋蔵文化財保護センター調査報 告書第48号 城ヶ原7号墳・竹 山城跡	岐阜県立多治見市教育委員会	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第111号 生天寺道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
大垣西仲報3号 市堀跡調査報告書 第一歩見市埋蔵文化財発掘調査報 告書第44号	建設部中央地方建設局岐阜国道工 事事務所 財團法人岐阜県埋蔵文化財 保護センター調査報告書第45号	静岡県の歴史をさぐる 考掘調査報 告会資料	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所
北小太谷洞31・32号室堀跡調 査報告書 一歩見市埋蔵文化財 発掘調査報告書第45号	多治見市文化財保護センター	静岡市立豊島博物館報8 一平 成9年度	財團法人立豊島博物館
大野坂塚II・I号室堀跡調査報告書 一歩見市埋蔵文化財発掘調査報 告書第46号	多治見市文化財保護センター	財團法人 嶺北市埋蔵文化財調査 センター調査報告 第16集 上 品野櫛道跡	愛知県岡市市教育委員会 財團法 人嶺北市埋蔵文化財センター
深山1号室堀跡調査報告書 一歩 見市埋蔵文化財発掘調査報告書 第50号	多治見市文化財保護センター	財團法人 嶺北市埋蔵文化財調査 センター調査報告 第19集 買 前第1号	愛知県岡市市教育委員会 財團法 人嶺北市埋蔵文化財センター
小林山3号室堀跡調査報告書 一歩見市埋蔵文化財研究調査在 報告書第53号	多治見市文化財保護センター	財團法人 嶺北市埋蔵文化財調査 センター調査報告 第20集 市 内遺跡調査報告1	愛知県岡市市教育委員会 財團法 人嶺北市埋蔵文化財センター
大庭西山1・2・3号室堀跡調 査報告書 一歩見市埋蔵文化財 発掘調査報告書第59号	多治見市文化財保護センター	愛知県埋蔵文化財セントラル調査報 告書第75号 丹波山古墳群(さ355) I・II	財團法人愛知県埋蔵文化財センタ ー
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第72号 田代道跡II	多治見市文化財保護センター	愛知県埋蔵文化財セントラル調査報 告書第76号 丹波尾道跡	財團法人愛知県埋蔵文化財センタ ー
静岡県埋蔵文化財調査在研究所調査 報告第73号 猪鳴道跡II地点、 五百石道跡	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所	愛知県埋蔵文化財セントラル調査報 告書第77号 此対安賀道跡	財團法人愛知県埋蔵文化財センタ ー
静岡県埋蔵文化財調査在研究所調査 報告第74号 北神馬上手道跡他II 静岡県埋蔵文化財調査在研究所調査 報告第75号 北神馬上手道跡他II	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所	愛知県埋蔵文化財セントラル調査報 告書第78号 丹波山道跡	財團法人愛知県埋蔵文化財センタ ー
静岡県埋蔵文化財調査在研究所調査 報告第76号 田代道跡II	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所	愛知県埋蔵文化財セントラル調査報 告書第79号 一色吉海道跡 考古掘 査	財團法人愛知県埋蔵文化財センタ ー
静岡県埋蔵文化財調査在研究所調査 報告第77号 田代道跡II	財團法人静岡県埋蔵文化財調査研 究所	愛知県埋蔵文化財セントラル調査報 告書第80号 一色吉海道跡 自然 科學、考察編	財團法人愛知県埋蔵文化財センタ ー
名古屋大学加速器質析分析計業績 報告書(IV)	名古屋大学年代測定研究センター	名古屋大学年代測定研究センター	
・(昭和23)中瀬道路 理藏文化 財発掘調査報告書		・東京埋蔵文化財センター	
・(昭和42)松坂・多気ハイバス 理藏文化財発掘調査報告書VII		・東京埋蔵文化財センター	
・(昭和47)東海環状自動車道 理藏文化財発掘調査報告書		・東京埋蔵文化財センター	
・笠置川改修奈良府地区・香良洲西 山道跡発掘調査報告		・東京埋蔵文化財センター	

書名	発行所	書名	発行所
近畿自動車道名古屋神戸線 (G2) 名神 岐阜段文化財発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	平成9年度 (B8) 八尾市文化財調査研究会事業報告	財團法人八尾市文化財調査研究会
天白道路	三重県埋蔵文化財センター	史跡・今城原古墳 一平成8年度、規制地認定調査	高槻市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告115-7 鹿児島内閣府免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	笠井200m (第8次調査)	神戸市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告123-3 新城寺道路	三重県埋蔵文化財センター	佐吉谷道路 (第17・18次調査)	神戸市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告146-1-1 豊田地区内道跡群免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	神戸市垂水区本山道路 (第22次調査)	神戸市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告146-2 中の坊道路	三重県埋蔵文化財センター	特別史跡 横路城跡 石川修理工事報告 (6)	駿路市
三重県埋蔵文化財調査報告146-3 曽根崎道路 (第2次) 曾根崎古墳群	三重県埋蔵文化財センター	安積治山古墳	高槻市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告146-7 門院道路免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	上里道路、風船谷古墳、大井谷城跡、土坂遺跡、横須賀古墳	建設省松江国道路建設事務所
三重県埋蔵文化財調査報告146-9 山添道路 (第2次) 里中道跡ほか	三重県埋蔵文化財センター	四ヶ町道路、林越り道路、愛馬道路	鳥取県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告148 水郷道路免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	引山川山道跡	建設省松江国道路建設事務所
三重県埋蔵文化財調査報告150 鹿田大内 (内道跡) 免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	塙作山道跡群	鳥取県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告152 大花寺丘陵内道跡群免耕調査報告 (1)	三重県埋蔵文化財センター	朝日道路、草唐古墳	建設省松江国道路建設事務所
三重県埋蔵文化財調査報告159 内川外道跡免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	山地古墳群	鳥取県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告160 山崎道路免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	門生古谷1・II・III道跡	建設省松江国道路建設事務所
三重県埋蔵文化財調査報告163 ラノ坪道路免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	石田道跡Ⅲ	鳥取県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告164 高見大内 (内道跡) (第2次) 免耕調査報告	三重県埋蔵文化財センター	山ノ神道路、五反田道路	建設省松江国道路建設事務所
三重県埋蔵文化財調査報告166-1 北条山道路、安田上山道跡、曾根原ノ内道跡、花の木道跡	三重県埋蔵文化財センター	志村谷1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・119・120・121・122・123・124・125・126・127・128・129・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148・149・149・150・151・152・153・154・155・156・157・158・159・160・161・162・163・164・165・166・167・168・169・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・199・200・201・202・203・204・205・206・207・208・209・209・210・211・212・213・214・215・216・217・218・219・219・220・221・222・223・224・225・226・227・228・229・229・230・231・232・233・234・235・236・237・237・238・239・239・240・241・242・243・244・245・246・247・247・248・249・249・250・251・252・253・254・255・256・257・258・259・259・260・261・262・263・264・265・266・267・268・269・269・270・271・272・273・274・275・276・277・278・279・279・280・281・282・283・284・285・286・287・288・289・289・290・291・292・293・294・295・296・297・298・299・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・309・310・311・312・313・314・315・316・317・317・318・319・319・320・321・322・323・324・325・326・327・327・328・329・329・330・331・332・333・334・335・336・337・337・338・339・339・340・341・342・343・344・345・346・347・347・348・349・349・350・351・352・353・354・355・356・357・358・359・359・360・361・362・363・364・365・366・367・368・369・369・370・371・372・373・374・375・376・377・378・379・379・380・381・382・383・384・385・386・387・388・389・389・390・391・392・393・394・395・396・397・398・398・399・399・400・401・402・403・404・405・406・407・408・409・409・410・411・412・413・414・415・416・417・417・418・419・419・420・421・422・423・424・425・426・427・427・428・429・429・430・431・432・433・434・435・436・437・437・438・439・439・440・441・442・443・444・445・446・447・447・448・449・449・450・451・452・453・454・455・456・457・458・459・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・479・479・480・481・482・483・484・485・486・487・488・489・489・490・491・492・493・494・495・496・497・498・498・499・499・500・501・502・503・504・505・506・507・508・509・509・510・511・512・513・514・515・516・517・517・518・519・519・520・521・522・523・524・525・526・527・527・528・529・529・530・531・532・533・534・535・536・537・537・538・539・539・540・541・542・543・544・545・546・547・547・548・549・549・550・551・552・553・554・555・556・557・558・559・559・560・561・562・563・564・565・566・567・568・569・569・570・571・572・573・574・575・576・577・578・579・579・580・581・582・583・584・585・586・587・588・589・589・590・591・592・593・594・595・596・597・598・598・599・599・600・601・602・603・604・605・606・607・608・609・609・610・611・612・613・614・615・616・617・617・618・619・619・620・621・622・623・624・625・626・627・627・628・629・629・630・631・632・633・634・635・636・637・637・638・639・639・640・641・642・643・644・645・646・647・647・648・649・649・650・651・652・653・654・655・656・657・658・659・659・660・661・662・663・664・665・666・667・668・669・669・670・671・672・673・674・675・676・677・678・679・679・680・681・682・683・684・685・686・687・688・688・689・689・690・691・692・693・694・695・696・697・697・698・698・699・699・700・701・702・703・704・705・706・707・708・709・709・710・711・712・713・714・715・716・717・717・718・719・719・720・721・722・723・724・725・726・727・728・729・729・730・731・732・733・734・735・736・737・737・738・739・739・740・741・742・743・744・745・746・747・747・748・749・749・750・751・752・753・754・755・756・757・758・759・759・760・761・762・763・764・765・766・767・768・769・769・770・771・772・773・774・775・776・777・778・779・779・780・781・782・783・784・785・786・787・788・788・789・789・790・791・792・793・794・795・796・797・797・798・798・799・799・800・801・802・803・804・805・806・807・808・809・809・810・811・812・813・814・815・816・817・817・818・819・819・820・821・822・823・824・825・826・827・828・829・829・830・831・832・833・834・835・836・837・837・838・839・839・840・841・842・843・844・845・846・847・847・848・849・849・850・851・852・853・854・855・856・857・858・859・859・860・861・862・863・864・865・866・867・868・869・869・870・871・872・873・874・875・876・877・878・879・879・880・881・882・883・884・885・886・887・888・888・889・889・890・891・892・893・894・895・896・897・897・898・898・899・899・900・901・902・903・904・905・906・907・908・909・909・910・911・912・913・914・915・916・917・917・918・919・919・920・921・922・923・924・925・926・927・928・929・929・930・931・932・933・934・935・936・937・937・938・939・939・940・941・942・943・944・945・946・947・947・948・949・949・950・951・952・953・954・955・956・957・958・959・959・960・961・962・963・964・965・966・967・968・969・969・970・971・972・973・974・975・976・977・978・979・979・980・981・982・983・984・985・986・987・988・988・989・989・990・991・992・993・994・995・996・997・997・998・998・999・999・1000	

書名	発行所	書名	発行所
四国道員自転車道理文化財調査報告書 第20号 - 伊予市道第1号 - 鶴ケ谷2号橋、通上三谷古墳、大久保古墳、通上三谷古墳、原池道跡、西香花道跡、鷲古道跡、向池道跡、鬼附道跡	財團法人愛媛県理文化財調査センター	平光神道跡	福岡町教育委員会
四国日本道路一部道沿いの資源の運動に伴う埋蔵文化財調査報告書第1集	財團法人愛媛県理文化財調査センター	福岡町文化財調査報告書第7集 古内野古墳群	福岡町教育委員会
西野川日谷道跡 通野池2号橋	財團法人愛媛県理文化財調査センター	福岡町文化財調査報告書第9集八重山原郡	福岡町教育委員会
登録道跡 - 一般国道196号今治バイパス埋蔵文化財調査報告書第1集	財團法人愛媛県理文化財調査センター	福岡町文化財調査報告書第10集 平光神道跡	福岡町教育委員会
糸山5号土塙跡 糸山ミカゲ谷道跡 内城跡	財團法人愛媛県理文化財調査センター	津九郷の道跡	福岡町文化財調査報告書第11集
中駒道跡	財團法人愛媛県理文化財調査センター	八重山道跡	福岡町文化財調査報告書第12集
御壁城跡	財團法人愛媛県理文化財調査センター	三日月文化財調査報告書第8集 土生城跡	佐賀県小城・三日月町教育委員会
松山市文化財調査報告書62 大峰ヶ谷道跡 - 1次調査	松山市教育委員会(財) 松山市生徒学園埋蔵文化財センター	三日月文化財調査報告書第9集 土生城跡II	佐賀県小城・三日月町教育委員会
松山市文化財調査報告書63 個性百引道	松山市教育委員会(財) 松山市生徒学園埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第87集 立石城跡 II - 4へりの制作	佐賀市教育委員会
松山市文化財調査報告書64 和氣、柳原の道跡	松山市教育委員会(財) 松山市生徒学園埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第88集 久富道跡、友直道跡、東下手道跡	佐賀市教育委員会
松山市文化財調査報告書65 石井、津穴の道跡	松山市教育委員会(財) 松山市生徒学園埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第89集 牟田道跡	佐賀市教育委員会
松山市文化財調査報告書67 畦音寺道の道跡	松山市教育委員会(財) 松山市生徒学園埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第90集 修院道跡	佐賀市教育委員会
松山市埋蔵文化財調査年報 X	松山市教育委員会(財) 松山市生徒学園埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第91集 若宮道跡 (2、3回)	佐賀市教育委員会
香取古墳	萩原市教育委員会 九州大学文学部考古学研究室	佐賀市文化財調査報告書第92集 東手道跡 (第5回)	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第131号 萩原町府頭	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第93集 坪の道跡 I	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第132号 朝雲小路道跡	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第94集 コマヨの道跡	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第133号 別府道跡	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第95集 琵琶島跡 6区の調査	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第134号 城崎山南嶺	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第96集 佐賀市文化財認定調査報告書 第1993-1994年度	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第135号 城崎山南嶺	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第97集 赤井川道跡 1区・先立山道跡 1区	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第137号 大津寺道跡	久留米市教育委員会	三日月の道跡 (三日月文化財調査報告書 第2集) 久道・ツ原古墳 直迫古墳	大分県下毛郡 (三日月教育委員会)
久留米市文化財調査報告書 第138号 錦木古墳群	久留米市教育委員会	三日月古跡群 先立山道跡	大分県下毛郡 (三日月教育委員会)
久留米市文化財調査報告書 第139号 筑後川筑跡 四分野跡 平成9年度発掘調査概要	久留米市教育委員会	-般社団法10号線 中津ハイバス埋蔵文化財調査報告書 (5) 安平道跡 山城道跡 大隈山道跡	大分県教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第140号 久留米市内道路跡	久留米市教育委員会	-般社団法10号線 (日)バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (1) 日津川古跡道跡群の調査 2 手崎道跡 大隈道跡	大分県教育委員会
玉坂古跡 寶瓶調査及び保存整備報告	桂川町教育委員会	九日市動水道関係埋蔵文化財調査報告書 (8) かわひ道跡	大分県教育委員会
玉丸長尾道跡 宗像市文化財調査報告書	宗像市教育委員会	九日市動水道関係埋蔵文化財調査報告書 (9) 佐井の道跡 比治道跡 有田郡ケ原の道跡	大分県教育委員会
野坂頭日 宗像市文化財調査報告書 第45集	宗像市教育委員会	大分郡文化財調査報告書 第99 大分の前方後円墳	大分県教育委員会
前原木道跡 前原市文化財調査報告書 第46集	前原市教育委員会	野蒜山地区に伴う発掘調査報告書	大分県立久入久住町教育委員会
川原川(川口地区)道跡群目 前原市文化財調査報告書第55集	前原市教育委員会	尾首跡、市第V道跡	大分県立久入久住町教育委員会
平成20年春 那珂川町文化財調査報告書第41集	那珂川町教育委員会	上ノ原平原A道跡 中津市文化財調査報告書 第20集	中津市教育委員会
平成20年春 那珂川町文化財調査報告書第41集	那珂川町教育委員会	中津城下町道跡 京町御用屋敷跡	中津市教育委員会
城ノ元跡群と那珂川町文化財調査報告書第42集	那珂川町教育委員会	中津市文化財調査報告書 第21集	中津市教育委員会
城ノ元跡群那珂川町文化財調査報告書第42集	那珂川町教育委員会	那珂川跡人見地区 (黒) 定留道跡 向田区・中津市文化財調査報告書 第22集	中津市教育委員会
	那珂川町教育委員会	熊本県本郷市文化財調査報告書 第8集 本郷北小学校フル道跡調査報告書	熊本県本郷市教育委員会

書名	発行所	書名	発行所
熊本大学理謎文化財調査年次報告書 4 - 1997年度 -	熊本大学理謎文化財調査室	第1回「重説理謎文化財・考古学からみた『重の本の文化』」	「重説理謎文化財センター」
城南町文化財調査報告書第10号 阿高道路	城南町教育委員会	第17回「重説理謎文化財展『重のはじめ』」	「重説理謎文化財センター」
新御立道路 一町近鉄線中央線道路改良工事に伴う発掘調査 宮崎県理謎文化財センター発掘調査報告書第7号 熊本野道跡 神鹿道跡八地区	新御立道路調査班	新御立道路、枚方の遺跡 平成10年度冬季企画展「古い文化あれこれ 清野謙次コレクションから」	財團法人枚方市文化財研究課在大阪府立近づ飛鳥博物館
宮崎県理謎文化財センター発掘調査報告書第8号 平原道路 神鹿道跡	宮崎県理謎文化財センター	平成10年度秋季特別展「大化の傳承」	大阪府立近づ飛鳥博物館
宮崎県理謎文化財センター発掘調査報告書第9号 前田道路	宮崎県理謎文化財センター	「見出された日本列島'97」地域展示 ひょうご復興の街から	神戸市教育委員会
宮崎県理謎文化財センター発掘調査報告書第10号 中山道路	宮崎県理謎文化財センター	たんけんくらしきの古代 平成10年度企画展「発掘くらしき道具と木のはなし 平成10年度秋の展示会」	自費理謎文化財センター 自費理謎文化財センター 広島県立歴史民俗資料館
宮崎県理謎文化財センター発掘調査報告書第11号 道後道路	宮崎県理謎文化財センター	平成10年度考古企画展「ひろしまの古代寺院 寺町鹿寺と水切り瓦 堀田町歴史資料館秋の特別展示 周防灘内海沿岸地域の【銅文化】 西と東の藝文上器 開創10周年記念特別展氏森羅万象に進る」	広島県立歴史民俗資料館 堀田町教育委員会
宮崎県理謎文化財センター発掘調査報告書第12号 東九州自動車道 道後理謎文化財発掘調査概要報告書 附「西郷・精武式」	宮崎県理謎文化財センター	第14回特別展「火の噴いて出し」 上野原遺跡ハネルディスカッショングローブ 鹿児島市立ふるさと考古歴史館常設展示回顧	北九州市立考古博物館 大分市歴史資料館 鹿児島市教育委員会 鹿児島市立ふるさと歴史考古館
えびの市理謎文化財調査報告書第22号 7月引羽道路	宮崎縣大びの市教育委員会		
鹿児島市理謎文化財調査報告書 (22) 沢ノ原火薬製造所跡	鹿児島市教育委員会		
鹿児島市理謎文化財調査報告書 (23) 民衆之洞合台跡	鹿児島市教育委員会		
伊集院町理謎文化財発掘調査報告書 第(10)	伊集院町教育委員会		
人来町理謎文化財発掘調査報告書 (6) 鹿村ヶ道跡	人来町教育委員会		
人来町理謎文化財発掘調査報告書 (7) 山内大寺寺跡跡	人来町教育委員会		
加世田市理謎文化財発掘調査報告書 第(15) 豊ノ原遺跡 第1分層	加世田市教育委員会		
鹿屋市理謎文化財発掘調査報告書 第(51) 中ノ原 (VII) 道路	鹿屋市教育委員会		
鹿屋市理謎文化財発掘調査報告書 第(53) 在(VII) 道路	鹿屋市教育委員会		
鹿屋市理謎文化財発掘調査報告書 (54) 鹿屋城跡 (II) 道路	鹿屋市教育委員会		
鹿屋市理謎文化財発掘調査報告書 (55) 宮ノ原道路	鹿屋市教育委員会		
川辺町唯文化財発掘調査報告書 5 供奉塚遺跡	川辺町教育委員会		
川辺町理謎文化財発掘調査報告書 6 国乐野道路	川辺町教育委員会		
阿苏市理謎文化財調査報告書(1) 前原遺跡 鳥居ヶ段道路	阿蘇市教育委員会		
金峰町理謎文化財調査報告書(9) 上木浦道路 第1次発見	金峰町教育委員会		
金峰町理謎文化財調査報告書 (10) 持谷遺跡 第一次発見	金峰町教育委員会		
南日本文化研究所第24 加計 呂島島ノ祭記調査報告書	鹿児島短期大学南日本文化研究所		
神戸の文化財 V 「理謎文化財編」	神戸市教育委員会		
那覇市文化財調査報告書 第刈占 墓群(1)	那覇市教育委員会		
那覇市文化財調査報告書第35号 那覇原遺跡	那覇市教育委員会		
国際・日韓 吉小牧の理謎文化財(興文時代・ 前田期)	吉小牧市文化財センター		
吉小牧市理謎文化財センター概要 平成10年度企画展「はじめの世界 井掛井の介作品展」	吉小牧市文化財センター 千葉県立房總風土記の丘 大田区立郷土博物館 大田区立博物館		
製作工芸の考古学 多治見市文化財センター研究紀要 第4号「油所佐吉磁器団体」	多治見市文化財保存センター		

付編 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査

1 調査に至る経過

鹿児島大学では、桜ヶ丘団地内に受水槽を設置することになり、医療技術短期大学部（現医学部保健学科）の北側に位置する、学生寮（各種学校寄宿舎）のすぐ北がその予定地とされた（Fig.11）。本地点の南約100mの臨床研究棟増築地¹⁾。難治性ウイルス疾患研究センターにおける発掘調査では、弥生時代から縄文時代早期までの遺構や遺物が出土している。また、東約200mの地点のMRI-C T装置棟建設地での発掘調査²⁾は縄文時代早期を中心とする土器や石器などが出土しており、1点のみ、縄文草創期の打製石鏃も確認された。

これらのことから本地点においても該期の遺構や遺物の存在が予想されたため、埋蔵文化財調査室では本地点においても発掘調査を行うことになり、平成6年5月16日～6月15日にかけて実施した。

2 調査体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 大西智和・峰山いづみ・古澤生

発掘調査作業員 池口洋人・瀬戸口諭・吉永幸子・水里幸子・西之園ツヤ子・中村いつ子・矢住純子・馬場千寿子・新原和子・佐々木智子・上原文代・有馬美恵子

調査補助 陣内高志（鹿児島大学法文学部3年）

3 調査の経過

表土と客土は重機を用いて除去した。2層上面で、溝状遺構やピットなどを検出し、3層上面では多数のピットを検出した。その他、地層横転も確認できた。4層上面では調査区北東部において、縄文時代早期に比定できる住居跡を1軒確認した。各遺構について写真撮影及び実測を行い、調査区東側壁面の層位断面実測図を作成して作業を終了した。

4 層位 (Fig.12)

1層 表土層、客土などを一括して1層とした。

2層 いわゆるアカホヤと呼ばれる火山灰層であり、明褐色（7.5YR4/4）を呈し、粘性は帶びていない。

2'層 色調は褐色（7.5YR4/4）を呈するが一定していない。2層に相当すると考えられるが、かなり濁った色調を呈する。2～3cm大までの礫、2cm大ほどの薩摩火山灰の粒子などを含んでいる。

3層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈するシルト質層。2cm程度（まれにそれよりも大きいものも見られる）の薩摩火山灰をブロック状に含む。縄文時代早期の遺物包含層である。

4層 橙色（7.5YR6/8）を呈する層でいわゆる「薩摩火山灰」層である。粒子の



Fig.11 調査区の位置 S=1/1000

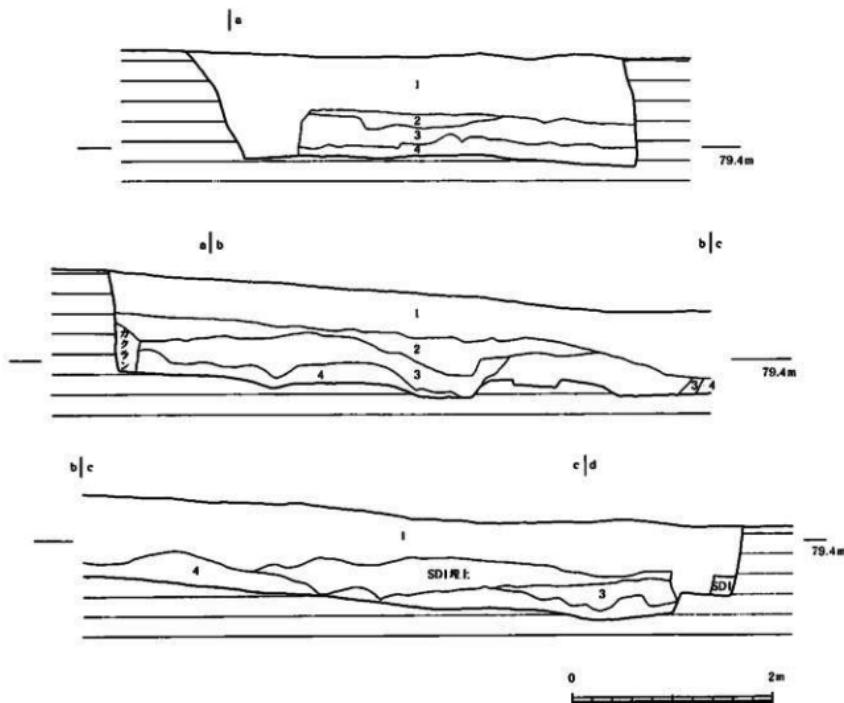


Fig.12 層位断面(東壁) S=1/50

大きさにはバラエティーがあり、粗いものから非常に細かいものまで見られる。

落ちであった可能性も考えられる。

遺物は、古墳時代成川式1点 (Fig.25-69)、陶器類数点 (Fig.25-70~75) が出土し、少量の繩文土器胴部小破片も認められた。

5 遺構

2層上面検出の遺構

SD1 (Fig.13A)

SD1は調査区の南東部で、表土層を除去した段階で検出された。北東から南西方向へのび、北西から南東方向へと落ち込んでいる。深さは、もっとも深いところで、37cmを測る (東壁断面Fig.12下段)。埋土は暗褐色 (10YR3/4) を呈するシルト質土で、粘性をやや帯びている。砂粒などはほとんど見られない。1cm大までの橙色の粒子や2・3mm大の白色の粒子を含んでいる。調査区内では片側の立ち上がりのみしか確認されていない。各土層には砂粒が含まれることが多いが、溝状遺構にはほとんど見られない。また、造成される以前の地形図を参照すると、このあたりは、畑であったことがわかっている。これらのことから、SD1は溝状遺構ではなく、畑の段

3層上面検出の遺構

土壤状遺構 (Fig.13B, Tab.6)

3層上面で多数の土壤状遺構 (ピット) を検出した。埋土はいずれも2層の土である。ピットは調査区の西側と東側に集中しているが、形態や大きさなどは一定しておらず、性格は不明である。土壤の深さを検出面からの比高差で示しておく (Tab.6)。いくつかの土壤状遺構 (ピット) の埋土中からは、繩文早期土器が出土している (Fig.19-15・20, Fig.23-52など)。

地層横転 (Fig.13B・14)

遺構ではないが、地層横転が調査区の中央部やや南側、そして、調査区の南東隅から2カ所が確認された。検出した層は3層上面である (KD1, KD2)。

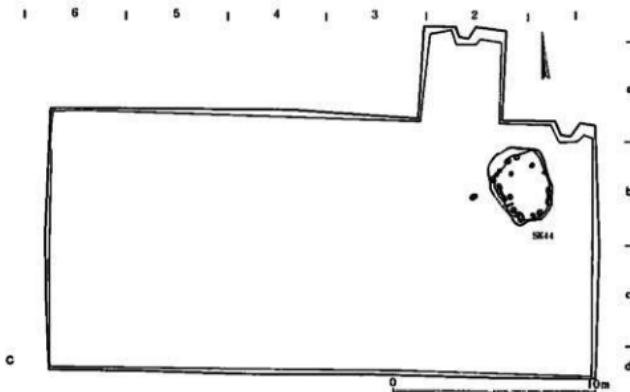
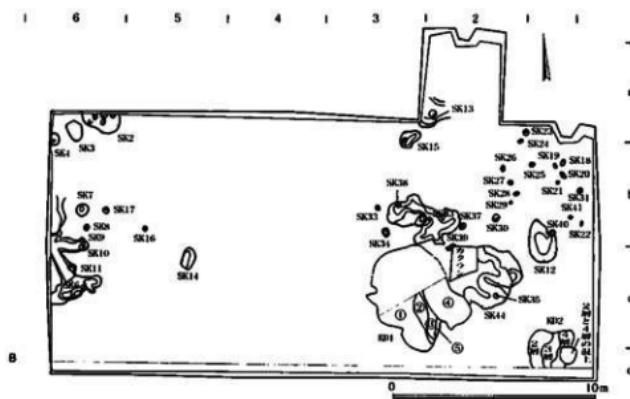
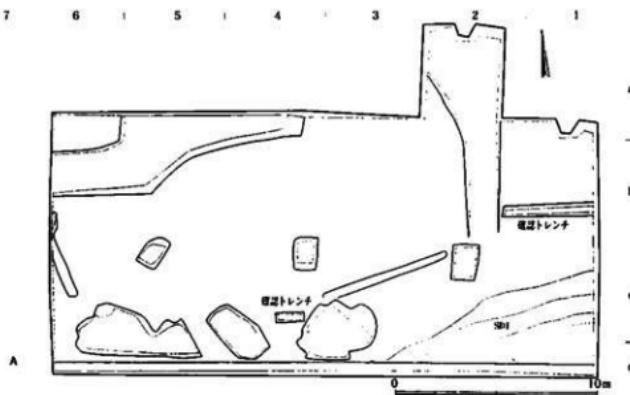


Fig.13 造模 (A: 2層上面・B: 3層上面・C: 4層上面) S=1/250

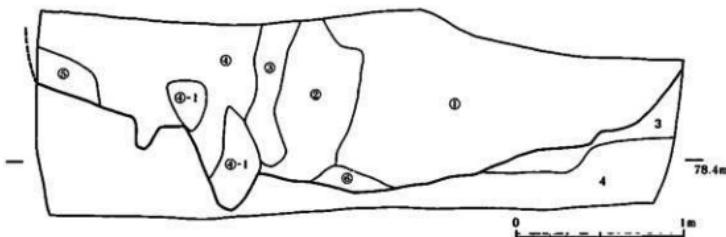


Fig. 14 地層横軸 (KD1断面) S=1/30

Tab. 6 土壌状構造の深さ

遺構名	形状	深さ(m)	備考
SK1	不定形	未計測	荒れ土壌のため削除
SK2	楕円形	0.203	土壌内ビットの最深部を計測
SK3	楕円形	0.371	土壌内の最深部を計測
SK4	ヒット	0.238	
SK5	不定形	0.19	土壌内の最深部を計測
SK6	不定形	0.811	土壌内ビットの最深部を計測
SK7	ヒット	0.23	
SK8	ヒット	0.152	
SK9	ヒット	0.24	
SK10	ヒット	0.316	
SK11	ヒット	0.4	
SK12	ヒット	0.382	土壌内の最深部を計測
SK13	不定形	0.835	土壌内ビットの最深部を計測
SK14	楕円形	0.251	土壌内の最深部を計測
SK15	不定形	0.474	土壌内ビットの最深部を計測
SK16	ヒット	0.2	
SK17	ヒット	0.112	
SK18	ヒット	0.215	
SK19	ヒット	0.115	
SK20	ヒット	0.379	
SK21	ヒット	0.062	
SK22	ヒット	0.209	
SK23	ヒット	0.352	
SK24	ヒット	0.895	
SK25	ヒット	0.418	
SK26	ヒット	0.139	
SK27	ヒット	0.21	
SK28	ヒット	0.375	
SK29	ヒット	0.1	
SK30	ヒット	0.404	
SK31	ヒット	0.387	
SK32	不定形	0.516	土壌内の最深部を計測
SK33	不定形	0.326	土壌内ビットの最深部を計測
SK34	ヒット	0.225	
SK35	ヒット	0.188	
SK36	ヒット	0.095	
SK37	ヒット	0.208	
SK38	ヒット	0.323	
SK39	ヒット	0.452	
SK40	ヒット	0.159	
SK41	ヒット	0.108	
SK42	ヒット	未計測	
SK43	ヒット	未計測	

前者は、平面形は不定形であるが、隅丸の長方形に近い。長さ約3.0m、幅約2.4m、深さは約1mである。風倒木による地層横軸である可能性が高く、その土層横軸の状況から判断すると、倒木方向は、

南北方向である (KD1)。

層は、

- ①基本土層の2層に対応
- ②2層と3層の混じったもの。粘性がなく、褐色7.5YR4/4をベースに、基本的に混ざりの少ないアカホヤ。①層もブロック状に含まれる。
- ③基本土層の3層に対応
- ④3層と4層の混じったもの。粘性はなく、黒褐色7.5YR2/2をベースに、サツマ火山灰ブロック(0.2~5cm大)を多く含む。
- ④-1は、よりサツマ火山灰に近いブロック状の土。
- ⑤2層と4層の混じったもの。粘性はなく、褐色7.5YR4/6ベースに、サツマ火山灰ブロック(0.5cm大)をごくわずかに含む。
- ⑥2層と4層の混じったもの。粘性はなく、褐色7.5YR4/6ベースに、サツマ火山灰ブロック(1~3cm大)をごくわずかに含む。
- 3・4層は基本土層に対応する。
後者は、平面形が不定形だが円形に近く、長さ約2.4m、幅は不明、深さは未計測である。倒木方向は西方向と判断された (KD2)。

4層上面検出の遺構

竪穴住居跡 (Fig. 13C・15)

竪穴式住居跡 (SK44) が1軒検出された。検出面での規模は南北長約3.9m、東西長約2.9mを測り、プランは隅丸長方形を呈する。埋土は3層土であり、検出面から床面までの深さは約20~30cmであった。しかし、これはあくまで今回の検出面からの深さである。竪穴内の四壁に沿って15個ほどのピットを検出したが、これらが柱穴になるものと考えられる。床面から炉跡は検出されなかった。この住居跡の形態的特徴は、加賀山遺跡例³⁾に近似する。住居跡内の埋土からは石器や土器片が8点出土しており、その中には岩本タイプ(I類)・前平式土器(II類)が含まれることから、この住居跡について

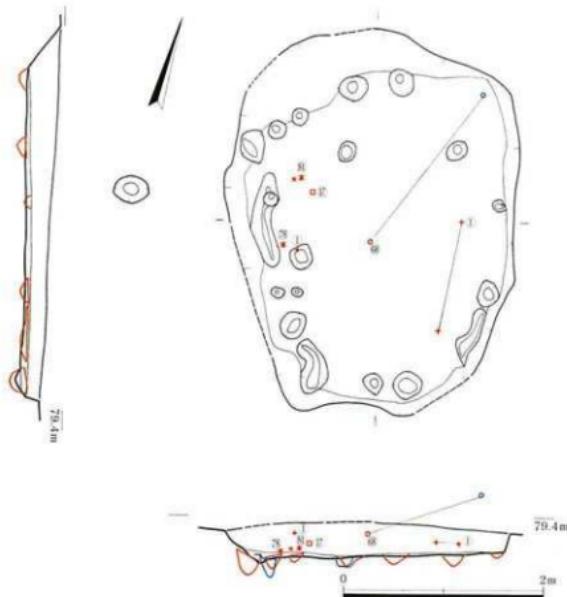


Fig. 15 住居跡 (SK44) S=1/50

青は手前のビット、赤は後のビット各見通し、記号は Fig. 16 凡例に同じ

は、縄文時代早期前葉の年代を想定したい。

住居検出面以下のレベルで出土した遺物は、図化可能なものが、土器 (Fig. 17-1 ~ Fig. 19-17 · Fig. 24-68), 石器 (Fig. 26-78 · 81) などである。しかしながら、Fig. 17-1 の土器は、KD1 の土器と接合し、Fig. 24-68 の土器も、出土レベル差が最大 50cm、最大距離約 10m 離れた資料との接合関係にある (Fig. 16)。検出面以下での出土状況は、床面近くに II 類があり、若干高い位置に I 類が出土していることは確認できる (Fig. 15)。しかし、ほとんどが破片資料であることからは、住居跡内に入り込んでいた土器の大半は、自然埋没する過程の住居跡の凹地に流れ込んだことによるもの、と判断した。

6 出土遺物

本地点からは全部で約 700 ~ 800 点の遺物が出土した。そのうちのはほとんどは土器片であるが、石器も少量見られる。出土した土器のはほとんどは縄文時代早期の前平式土器と呼ばれるものである。多くは円筒形を呈するが、角筒と呼ばれるものも少量見られる。施文方法や、口縁部の形態にはいくつかのバリエーションが認められる。

最も多くの遺物を包含していたのは 3 層である

が、2 層のアカホヤや 4 層の薩摩火山灰層からも、わずかではあるが出土している。層による遺物の時期差は認められないため、3 層からの混ざりこみの可能性は否定できない。遺物の接合関係を検討したところ、調査区の東半部に遺物が集中している、という以外に、特に有意な結果は得られなかった (Fig. 16)。

土器 (Fig. 17 ~ 25, Tab. 7 ~ 9)

1) 縄文時代

本調査区資料の縄文土器は、早期前葉段階に属する「貝殻文系円筒土器」のうち、前平式系土器に当たるもののがほとんどを占める⁴⁾。以下、口縁部、胴部、底部資料の順に記す。

① 口縁部資料ほか

I 類一 口唇部に工具を

強く押しつけ、鋸歯線を形成するもの。一般的に「岩本タイプ」⁵⁾と呼ばれる土器である (1)。

II 類一 貝殻の縁辺部の刺突によって、口縁部上半文様を描くもの。手法によって、細分した。

a) 貝殻縁刺突によって、一~二段の文様を巡らす。刺突文は、一つ一つが独立し離れるものと、切り合うものがあり、並びは、刺突が口唇部と垂直なもの、斜位のものがある。口縁部下半文様として、貝殻縁による横位貝殻刺突文を一~二段巡らせるものもある。また、貝殻条線を胴部に施すものもある (2~14)。

b) やや押し引き手法のように刺突幅の拡大するもので、正確には器面から一端引き抜いているようである。よって、「押し引き状文」と呼んでおく。基本的には、二段構成で、口縁部に横位に押し引き状文を巡らすが、縦位に巡らすものもある。口縁部下半の貝殻縁による横位刺突文は見受けられないが、胴部へ貝殻条線を施すもの多く、刺突文を施すものも認められる (15~20, 23~24)。

c) 貝殻の殻頂部を押し当てることによって施文するもの。円形の沈文になる。資料数は少ない (21~22)。

III 類一 ヘラ状工具による刺突文によって、口縁部

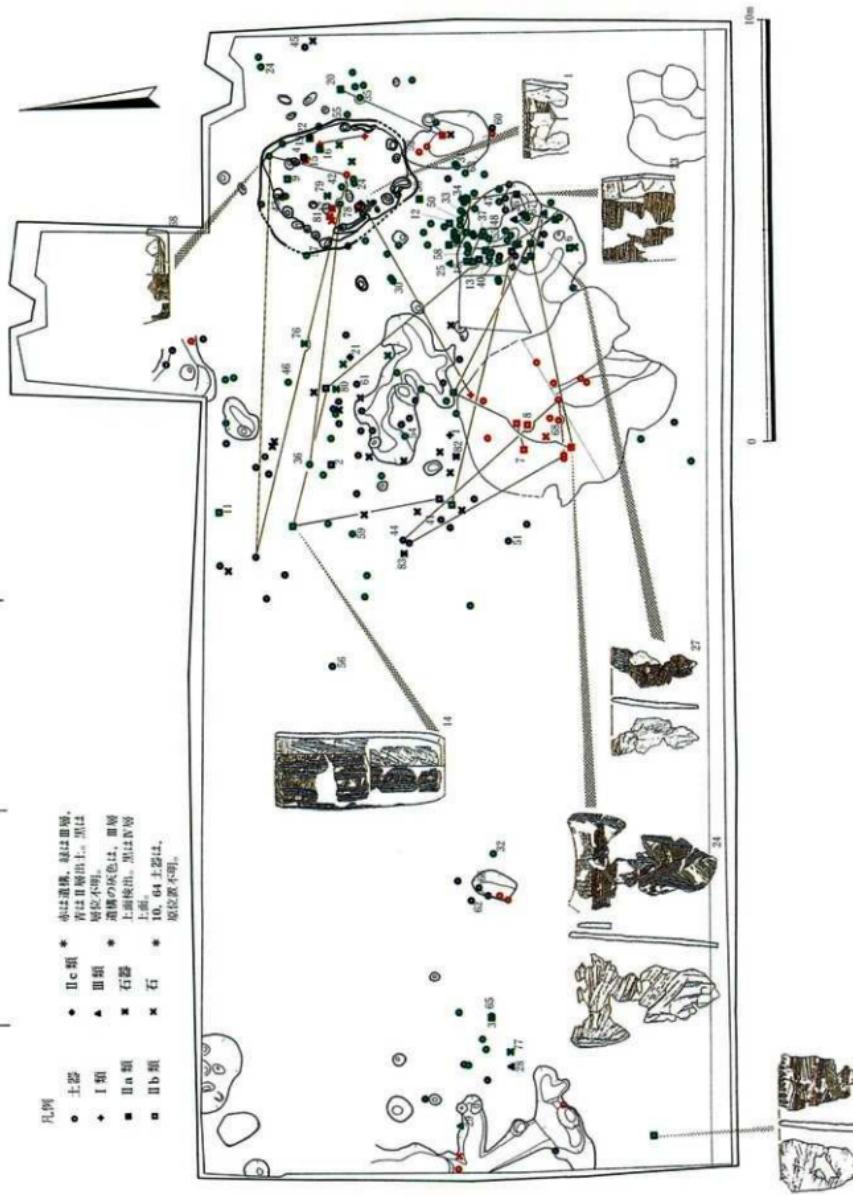


Fig. 16 連続結合器(ES=1/120)

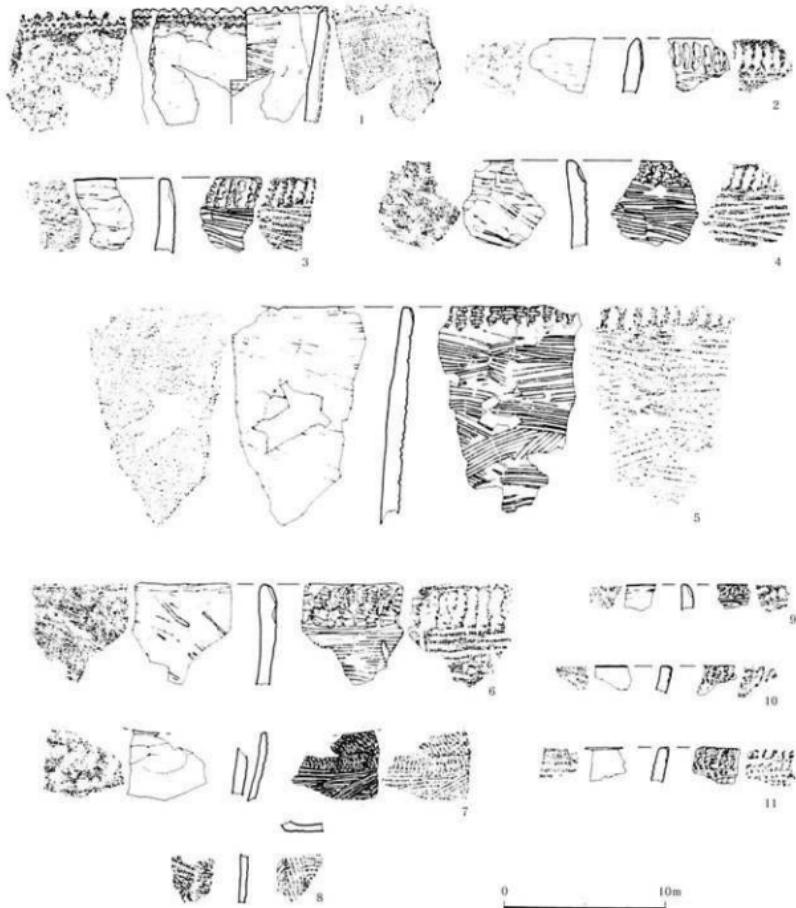


Fig. 17 土器(1) S=1/3 I類(1)、IIa類(2~11)

上半文様を描くもの。文様個々は、独立したものや、切り合うものがある。文様列の並びは、口唇部と垂直なもの、斜位のものがある。口縁部下半文様である横位刺突文を一段巡らせるものもある。胴部に、ヘラ描きによる鋸歯文を巡らすものも認められる(25~29)。

このII・III類は、従来の前平式の範疇にあると考えられる。

I類

1は、口径約12cmの、比較的小型に属するタイプである。外面はほとんど焼成時のハジケと思われる外器面の剥落に覆われておらず、地文が定かではないが、わずかに残存する部分から思料して、先端の柔

軟な植物質の工具で調整されているものと考えられる。口唇部の造りは、断面形状が内面側に傾斜し、また、口唇部を丸みのある工具によって外面側から押さえることにより、鋸歯状口縁を呈している。口縁端部には横位の貝殻刺突文を二条巡らし、右から左方向の施文であると考えられる。裏面は表面と同様の工具によって調整されている。工具幅は1cm前後のようである。

IIa類

2は、横位の貝殻条痕を地文とし、比較的大型の貝を立てて貝殻刺突文を巡らす。刺突し、引き抜いている方向から見て左から右への施文である。裏面は荒れており調整は不明瞭だが、引きずられている

混和材の方向から見て、右から左方向に施されているものと考えられる。

3は、横位の貝殻条痕を地文とし、縦位の貝殻刺突文を左から右方向へ巡らすものである。裏面は荒れているが、ヘラナデを横位に施しているようである。

4は、横位の条痕を地文とし、口縁部に縦位の貝殻刺突文を巡らすもので、引き抜く方向から見て、右から左方向へと巡らしている可能性がある。裏面は、ヘラナデを右から左上方向へ施し、口縁端部付近は横位のヘラナデが施される。

5は、横・斜位の条痕を地文とし、特に資料の下半では、織杉文状に重なることから、文様として意識している可能性もある。口縁端部には左から右方向へと貝殻刺突文が巡らされる。裏面には右下から左上方向へと目の細かい擦過があり、口縁部付近は横位に施されるようである。しかし、器面の荒れによって調整工具は不明瞭である。

6は、横位の貝殻条痕を地文とし、口縁部に貝殻刺突文を二段に巡らすものである。施文方向は、引き抜きから見て左から右であると考えられる。上下段の新旧関係は、一部の切り合いから見て、下から上であると思われる。また、擦り切り技法による穿孔の一部が残っている。焼成後穿孔である。裏面はヘラナデが横・斜位に施される。

7は、口縁形状の歪み、口唇縁の傾斜などから考えて、角筒形土器になる可能性がある。口唇部は平坦だが、内面に向かってやや傾斜している。外面の地文は、横位の貝殻条痕が施されるが、斜位に貝殻条線が施されている。文様は貝殻ともヘラ状工具とも判断のつかない刺突文が施されているが、切り合いか不明瞭なため、文様単位が分からず構成も不明確である。内面の器面調整は、右から左へのやや強めのヘラナデが施されている。

8は、胴部資料であるが、胎土、器面調整の特徴、器厚などが7と合致している。角筒土器であることを見示すコーナーが形成され、その部分の外面は斜位の貝殻条痕が施されている。

9は、資料が小さく判然としないが、横位の貝殻条痕を地文とし、口縁端部に刺突文を施文する。施文具は小型の貝と思われる、それを縦に連続して巡らすようである。資料左端の部分で、その上から施される文様に切られることから、右から左方向への施文であると考えられる。裏面には細かい条痕状の跡が残り、施文具と同様のものではないかと考えられる。

10は、小破片であり、器面の荒れがひどいが、諸特徴は11と合致し、同一個体であると類推される。

11は、口唇部を平坦に形成するが、内面に向かってやや下り気味になっている。外面は貝殻条痕を横位に施し、比較的浅い貝殻刺突文が二段巡らされる。上段目は、右上がりの斜位の刺突がなされ、それが口唇部にまで及んでいるため、鋸齒状に形成されているように見える。そういう要素からは、I類との近似性が窺える。二段目は縦位に施されている。上下段の切り合いは不明瞭だが、刺突文個々は、左から右周りに巡らされるようである。内面は貝殻条痕の後、指ナデを施しているようであるが、小破片のため判然としない。

12は、下から左斜め上方へむかう貝殻条痕を地文とし、口縁部に、貝を縦にして貝殻刺突文を施文するものである。施文具である貝の引き抜き方から見て、右から左巡りの可能性がある。その直下に横位の貝殻刺突文を一条巡らすが、その方向は不明である。裏面は荒れているが、ヘラナデによって下から左斜め上方へと調整されるようである。

13の諸特徴は、14に近似し、同一個体であると考えられる。

14は、ほぼ全形の窺える円筒形土器である。口径約11cmである。横・斜位の貝殻条痕を地文とし、その上から貝殻条線を五月雨状に巡らしている。地文というよりも文様を意識しているように思われる。口縁端部には、斜位の貝殻刺突文を巡らし、横位の刺突文をその直下に一条巡らしている。裏面は、縦・斜位のヘラ削りを施した後、口縁部は横位のヘラナデを荒く残している。

II b類

15は、横・斜位の貝殻条痕を地文とし、小型の貝（？）による押し引き状文を、下から上方向へ二段巡らすものである。裏面は、ヘラナデを右下から左上方向へと施した後、口縁端部には横位のヘラ削り痕が明瞭に残す。

16は、口唇部を平坦に整形するもので、外面は、文様帶で破壊しているために、地文は不明である。文様は、肋の荒い貝によって施される貝殻押し引き状文が二段認められるが、本来、何段構成になっていたのかは不明である。左から右方向であると考えられる。上下段の順序は不明確である。裏面は横位のヘラナデが施される。

17は、口唇部を平坦に面取りし、浅い貝殻刺突文を施している。外面の地文は、横位の貝殻条痕で、口縁端部には貝殻押し引き状文を口縁部に二段巡らす。下段から上段の順に施されている。その直下には横位の貝殻刺突文を一条巡らす。また、胴部に貝殻刺突による鋸齒文状の文様が施されていたようである。裏面は、横位のヘラナデが認められる。

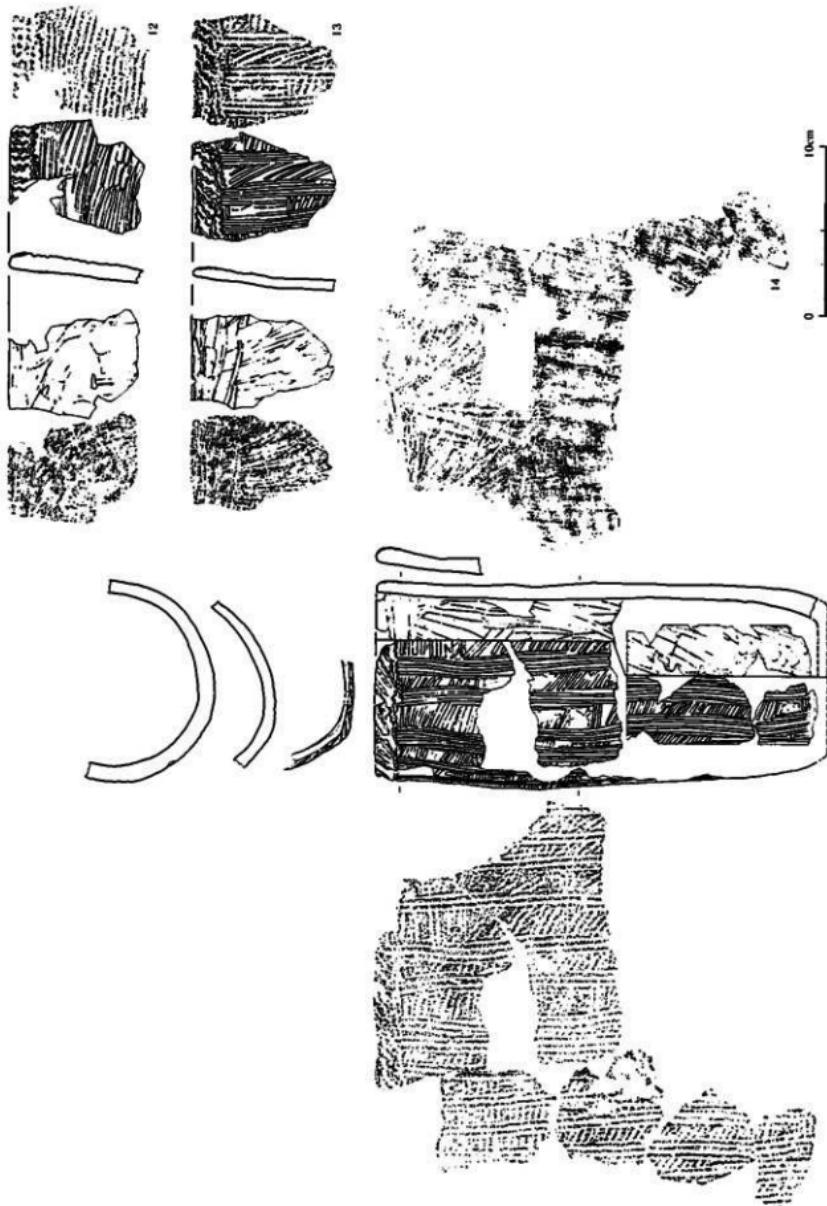


Fig. 18 土器(2)S=1/3 II・III (12—14)

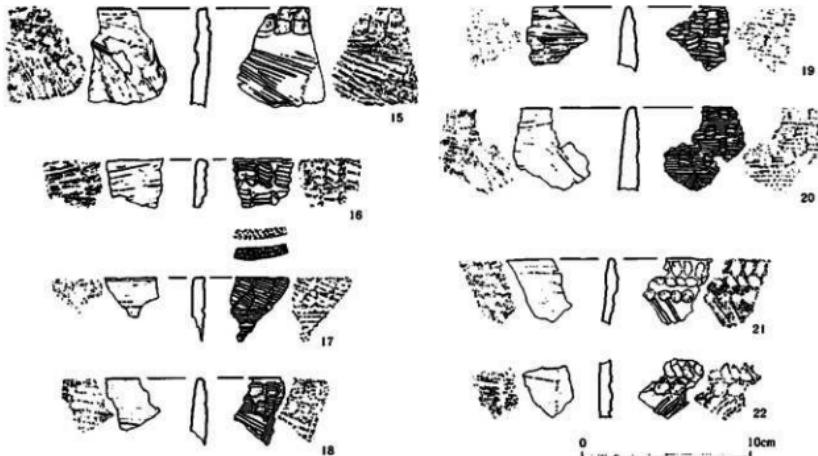


Fig.19 土器(3) IIb類 (15~20), IIc類 (21・22)

18は、外面が貝殻条痕を地文としており、ほぼ垂直に条線状に施されるものもある。口縁端部には左から右方向への貝殻押し引き状文が二段施されており、下段から上段の順である。裏面は、横位の浅いヘラ削りが比較的良好な状況で残存しており、工具幅は5mm前後である。

19は、口縁部断面形状が先細り状に形成されるが、端部は幅狭の平坦部を有している。文様帶は破損しており、外面の地文は不明確である。文様は横位の貝殻押し引き状文が四段認められるものの、本来の構成は不明である。押し引き状文は、全段とも間断があり、18とは異なり、ややランダムに配されている。裏面の調整は、幅1cm前後の植物質の工具による、浅い擦過が横位に認められる。

20は、口唇部は先細り状であるが、押さえによって幅の狭い平坦部を形成している。外面の地文は横位の貝殻条痕を施し、貝殻条線によって鋸齒文を描くようである。口縁部は貝殻押し引き状文を横位に四段巡らすが、全段ともに断続的に配され、その押圧部は、上下段が交互に配置されている。裏面は、浅いヘラナデ状の調整を斜位に、口縁部付近は横位に施される。

23は、円筒形土器で、口径約14cmである。口唇部は平坦に形成されている。外面の地文は横位の荒い貝殻条痕である。口縁部は、横位の貝殻押し引き状文が間断なく、二段構成で描かれている。文様の方向は、貝の引き抜き方から見て、左から右方向であると考えられるが、上下段の順序については不明確

である。裏面は、器面が荒れており調整が不明瞭であるが、細かい擦過が認められる。なお、脇部において、4箇所に擦り切り穿孔が認められる。

24は、角筒形土器である。角部が波状口縁の頂部になっている。口縁部付近は、比較的角張っているが、脇部に移行するにつれやや丸みを帯びているものと考えられる。口唇部は、平坦面が形成されている。外面の地文は、横・斜位の貝殻条痕を施した後、直状の貝殻条線、菱形状の貝殻条線などを施し、文様を意識していると考えられる。口縁部文様は、貝殻押し引き状文を三段構成で口唇部に沿って施している。文様の方向は左から右方向になっているが、器面が荒れているため、上下段の順序については定かではない。内面は比較的深めのヘラ削りを右から左方向へ施し、脇部下位では左上がりの調整になっている。

IIc類

21は、全体的に器面が荒れており、小破片のため不明確ではあるが、口唇部が舌状に形成されるもので、口縁部文様は、貝殻腹縁部の押圧、あるいは貝殻頂部の押圧を三段巡らすものと考えられる。地文については器面の荒れのためか判然としない。しかし、資料下位に、斜位のヘラ状の併走する浅い沈線文が描かれている。裏面も荒れており、調整が判然としないが、横位方向の幅広の擦過が認められる。

22は、文様、器厚、胎土、色調などは21に近似する口縁部付近の資料であるが、同一個体であるとは

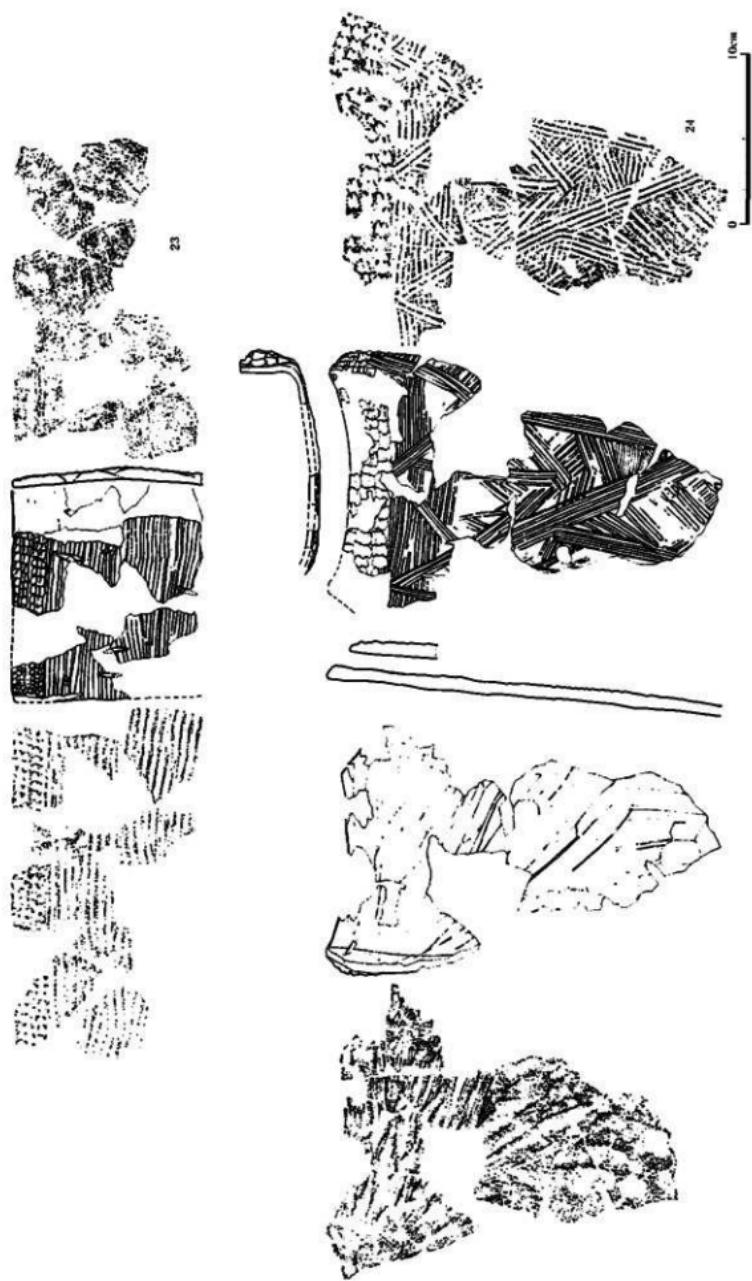


Fig. 20 土器(4)Se1/3 11b組 (23~24)

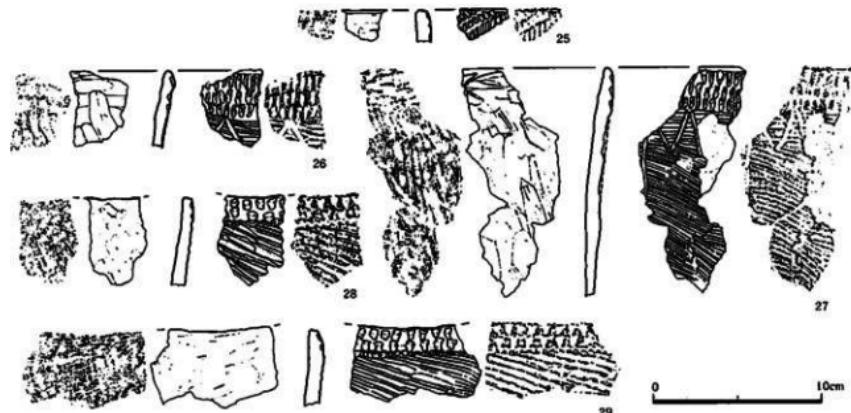


Fig. 21 土器(5)S=1/3 III類 (25~29)

確言できない。外面地文は、斜位の貝殻条線らしきものが認められるほかは、不明瞭である。文様は、小型の貝の殻頂部ではないかと思料されるものの、単なる押圧ではなく、やや反時計回りに工具を捻りながら施文している。外面の調整は、横・斜位の幅広の擦過が認められる。

III類土器

25は、口唇部が押さえられるものの、丸みを帯びて形成される。文様部分で破損しているために、不明瞭だが、ヘラ状工具による刺突文が斜位に、羽状文のように配置されている。内面は、浅いヘラナデ状の調整がなされる。

26は、諸特徴が27と合致し、同一個体と考えられる。

27は、口唇部を外面に向かって傾斜するような舌状に形成したものである。外面地文は、横・斜位の貝殻条痕である。口縁部はヘラ状工具による刺突文が三段巡らされており、その直下にヘラ状工具による鋸歯文が巡る。刺突文は、やや斜め下から器面に向かって刺突されるが、三段の施文順序は不明確である。鋸歯文の描く方向も判然としない。裏面の器面調整は、比較的深めに施される。胴部は縦位のヘラ割りが施され、口縁部付近は横位方向に施されている。混和材の引きずられ方から見て、胴部は下から上へ、口縁部は右から左へと調整されている。

28は、波状口縁部でないが、他の諸特徴が29に合致しており、同一個体であると目される資料である。

29は、口唇が平坦に形成され、貝殻肋を斜位に押

し当てている。口唇縁がやや波状を呈することから、角筒土器の特徴も備えている。外面の地文は粗い貝殻条痕を左上がりに斜位に施している。幅5mm前後のヘラ状工具によって、器面に対してやや下斜めから刺突し、二段巡らしている。その直下には、横位の貝殻刺突を一条巡らしている。裏面は荒れており、幅広の工具による擦過が認められる。

②胴部資料

胴部資料は、小破片が多い。よって残存部の調整と文様の特徴から、四類に分類した。

I類

I類は、植物質の先端の柔軟な工具によって施された擦痕を地文とするものである(30・31)。表裏面とともに横位に施される。出土量は少なかった。

II類

II類は、横位・斜位の単純な貝殻条痕を地文とするもの(32~40)。基本的には、縦・横・斜位の単純な条痕調整をするが、その原体である貝殻縁の粗密がある。出土量は、比較的多い。

III類

III類は、煩雜な貝殻条痕を施して地文とするもの(41~48)。出土量は比較的多い。

IV類

IV類は、地文である貝殻条痕の上から、貝殻条線・列点などを施し、規則性のあるモチーフを意図したと考えられるものをまとめた(49~58)。50・51などは縦位の貝殻条線を施すものである。52は縦位の貝殻条線に、縦位の列点文を並走させるものであり、53は五月雨状の縦位列点の傍らに鋸歯文を描

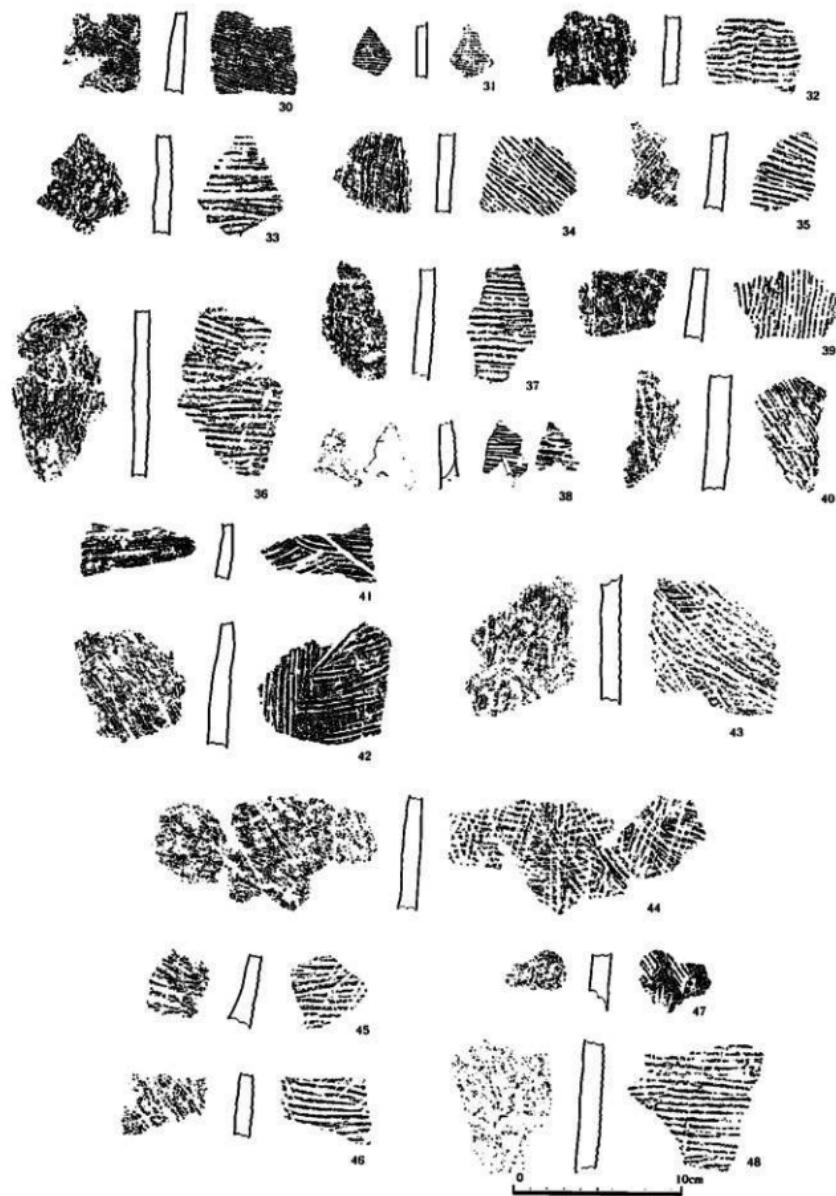


Fig. 22 土器(6)S=1/3 銅部 I類 (30・31), II類 (32~40), III類 (41~48)

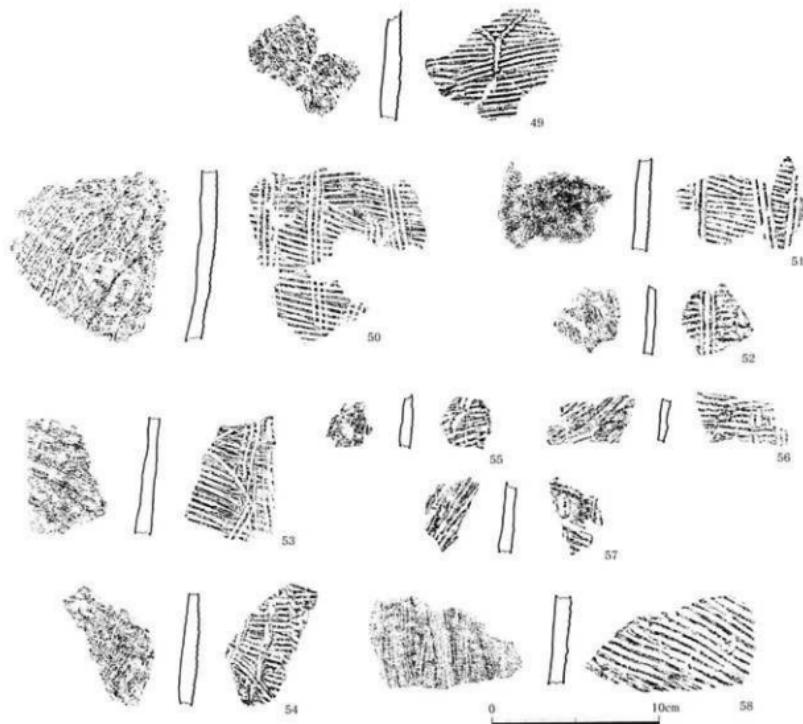


Fig.23 土器(7) S=1/3 脊部W類(49~58)

いている。54は列点を縱走させ、三又に垂下させる。55~58は列点文であるが、ほとんどが二単位なのに対し、58のみが一単位である。出土量は比較的多い。

③底部資料

底部資料は、立ち上がり部の調整の状況によって、三類に分類した。

I類— 底部立ち上がり部と接地面の角付近まで器面調整が及ばないもの(59~63)。

II類— 調整が横位・斜位に底部角まで施されるもの(64~65)。

III類— 底部角の調整が立ち上がり部で縦位に施されるもの(66~68)。

I類

59は、底径約9cmを測る。接地面と立ち上がり部との角は、シャープである。外面の残りが悪く、詳

細は不明である。底面は、ランダムにヘラナデ状の擦過が認められる。内面はナデ調整のようであり、立ち上がり部に指頭痕が残っている。

60は、底径約10cmを測る。接地面と立ち上がり部との角は、シャープである。外調整は、ヘラナデ状の擦過が横位に認められるが、底面については不明瞭である。内面は、粘土接合部も消されずに残っており、底面へ脛部の粘土を押しつけたようになっている。その部分まで貝殻条痕が認められ、比較的粗い調整のみで終えたものであろう。

61は、内外面ともに荒れているため、詳細は不明確だが、外面は横位にヘラ調整状の擦過が認められる。

62は、外面調整が縦位・横位に施される。立ち上がり部は横位に指ナデされている。底部を接着した際の指頭痕が認められる。底面は比較的丁寧に調整

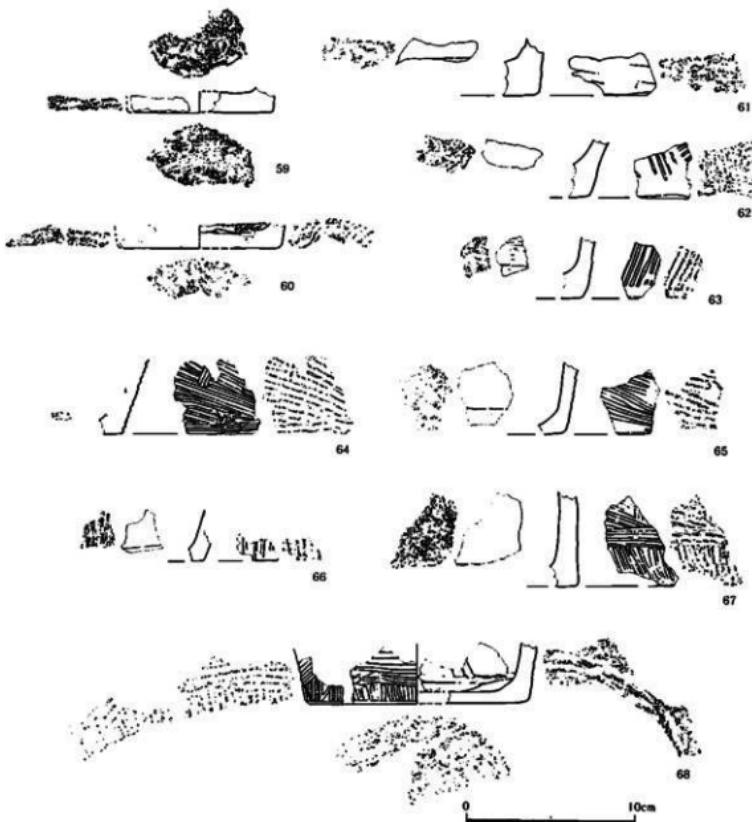


Fig. 24 土器(8)S=1/3 底部Ⅰ類 (59~63), Ⅱ類 (64~65), Ⅲ類 (66~68)

され、磨かれたようになっている。内面も丁寧に指ナデ調整される。

63は、外面に斜位の貝殻条痕を施した後、立ち上がり部角をヘラ状の工具によって、横位に掻き取っている。底面・内面については、ヘラナデ状の擦過が残り、内底面はナデられる。

Ⅱ類

64は、外面に粗い貝殻条痕が横・斜位に施される。脇部に近い部分には、貝殻条線が二条認められる。接地面と立ち上がり部との角は、シャープである。底面はヘラナデが比較的強く施され、内面もまた同様である。

65は、外面に斜位の貝殻条痕が施される資料で、

底面については不明瞭である。内面は横位のヘラナデ状の擦過が残る。

Ⅲ類

66は、残りが悪く、詳細は不明確だが、角部に、明瞭な縦位の縦位の貝殻条痕が施されていることから、ここに含めた。角はシャープに形成されている。外底面は、ヘラナデ状の擦過が施されている。内面は縦位のヘラナデ状の擦過が認められるが、その後丁寧にナデられたように非常に滑らかである。

67は、底面接地面と立ち上がり部を縦・斜位に貝殻条痕を施した後、横・斜位に施される。外底面は磨かれたか、器面が潰されたように滑らかになっている。内面は横位の非常に浅い擦過が認められ、ナデ

Tab. 7 土器觀察表(1)

No.	番	種別	器種	色調	施和材	施和材の多さ	調性	備考
1	KD1-3番	II類	櫻井	外縁:にぶい、褐色7.5YR5/4、内面:にぶい、 口縁:黄褐色10YR5/3、内:黒色10YR2/1 部	施:角閃石、粗砂:石英・白色・黑色粒	3	外縁:織維質工具による擦痕、内面:擦痕 工具による擦痕。	小字上部外縁 に擦痕
2	2番	IIa類	櫻井	外縁:にぶい、褐色7.5YR5/3、内面:SYR6/6、 口縁:内:緑褐色10GY2/1、 部	粗砂:石英・多・白色・多・黑色・ 多	9	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	草長
3	3番	IIa類	櫻井	外縁:明黄褐色10YR7/6、内面:2.5YR6/5、内: 口縁:内:緑褐色10GY2/1、 部	施:白色粒、粗砂:角閃石・石 英・黑色粒、 内:緑褐色2.5YR5/2、	3	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	塚の村着
4	2番	IIa類	櫻井	外縁:にぶい、褐色10YR5/3、内: 口縁:内:10YR6/3、内:緑褐色10GY2/1、 部	施:黄色・粗砂:石英・白色・黑 色	2	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ、 ナデ?	
5	3番	IIa類	櫻井	外縁:黄褐色2.5YR4/1、内面:にぶい、褐色 7.5YR2/4、内:にぶい、褐色7.5YR4/4、 部	施:白色粒・赤色粒、粗砂:石 英・多・黑色粒・多・灰色粒・ 白色粒	8	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	やや摩耗気味、 塚の村着
6	3番	IIa類	櫻井	外縁:にぶい、黄褐色10YR7/4、内面: 口縁:10YR2/3、内面:にぶい、黄褐色10YR6/4、 部:褐色10YR2/2、内:系色10YR2/1、 部	施:白色粒、粗砂:石英・多・黑 色	6	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	やや摩耗氣味、 塚の村着
7	KD1-2-3番	IIa類	櫻井	外縁:にぶい、黄色2.5YR4/6、内面: 口縁:内:2.5YR7/4、内:黄色2.5YR7/4、 部	粗砂:石英・黑色粒	2	外縁:貝殻条痕、内面:ナデ?	塚の村着
8	KD1-2番	IIa類	櫻井	外縁:にぶい、黄色2.5YR6/6、内面: 口縁:褐色10YR4/3、 部	粗砂:石英・黑色粒	2	外縁:貝殻条痕、内面:貝殻条痕、 ナデ?	
9	2番	IIa類	櫻井	外縁:明赤褐色SYR5/6、内面:にぶい、褐色 7.5YR2/1、内:黑色7.5YR2/1、 部	粗砂:石英・白色粒・黑色粒		外縁:貝殻条痕、内面:貝殻条痕?	
10	2番	IIa類	櫻井	外縁:褐色SYR6/6、内面:黄褐色10YR8/6、 口縁:内:オリーブ褐色SY3/1、 部	粗砂:石英・白色粒・黑色粒; 多	5	外縁:内面:貝殻条痕?、 ナデ?	やや摩耗氣味
11	3番	IIa類	櫻井	外縁:褐色SYR6/6、内面:褐色SYR6/6、内: 口縁:オリーブ褐色SY3/1、 部	粗砂:石英・白色粒・黑色粒; 多	5	外縁:貝殻条痕、内面:貝殻条痕?、 ナデ?	やや摩耗氣味
12	2番	IIa類	櫻井	外縁:黒褐色2.5Y3/1、内面:黒褐色 2.5Y3/1、 部	粗砂:石英		外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	草長氣味
13	3番	IIa類	櫻井	外縁:黒褐色2.5Y3/1、内面:褐色 2.5YR5/6、 部	施:白色粒、粗砂:石英・黑色 粒		外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ、 ナデ?	
14	後丸唇-2-3番	IIb類	櫻井	外縁:褐色SYR7/6、内:黄褐色10YR7/4、内: 口縁:にぶい、黄褐色10YR6/4、内: 部:2.5Y4/2、内:黑色2.5Y3/1、 部	施:白色粒、粗砂:石英・黑色 粒;多	4	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ、 ナデ?	塚の村着
15	SK25	IIb類	櫻井	外縁:褐色SYR6/6、内面:褐色10YR2/1、内: 口縁:褐色2.5Y7/4、内:褐色2.5YR6/6、内:淡褐色 2.5Y7/4、 部	施:白色粒、粗砂:石英		外縁:貝殻条痕ナデ、内面:ヘラナデーナ、 ナデ?	
16	3番	IIb類	櫻井	外縁:黒褐色10YR3/1、内:にぶい、青褐色 10YR6/4、内面:にぶい、青褐色10YR6/4、内: 部:灰色10YR4/1、内:黑色褐色10YR2/1、 部	粗砂:黑色粒		外縁:内面:ヘラナデーナ、 ナデ?	
17	SK44	IIb類	櫻井	外縁:にぶい、黄褐色10YR5/3、内面:にぶい、 口縁:褐色10YR5/3、 部	施:白色粒、粗砂:石英・白色 粒、赤色粒		外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	
18	3番	IIb類	櫻井	外縁:褐色SYR6/6、内面:褐色SYR6/6、内: 口縁:黑色SY2/2、 部	粗砂:石英・白色粒・黑色粒 黑色SY2/2、		外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ、 ナデ?	
19	3番	IIb類	櫻井	外縁:褐色2.5YR6/6、内面:にぶい、褐色 2.5YR6/6、内:黑色SY2/0、 部	粗砂:石英・黑色粒・白色粒、 白色SY2/0、		外縁:内面:織維質の工具による擦 痕。	
20	SK12-2-3番	IIb類	櫻井	外縁:にぶい、黄色2.5Y6/3、内面:にぶい、黃 色2.5Y6/4、 部	施:白色粒、粗砂:石英・白色 粒・黑色粒		外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	
21	2番	IIc類	櫻井	外縁:にぶい、黄褐色10YR5/4、内面:にぶい、 口縁:黄褐色10YR8/4、内:黄褐色2.5Y4/1、 部	施:石英・白色粒・粗砂:石英・ 多・黑色粒・多	5	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ ナデ?	
22	3番	IIc類	櫻井	外縁:にぶい、黄色2.5Y6/4、内面:にぶい、黃 色10YR7/4、内:品色10YR2/1、 部	施:白色粒、粗砂:石英・多・黑 色粒・多	5	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ、 ナデ?	塚の村着
23	2-3番	IIb類	櫻井	外縁:にぶい、黄褐色10YR7/4、黑褐色 10YR3/2、内面:にぶい、黄褐色10YR7/4、 部	施:白色粒、粗砂:石英・多・黑 色粒;多	6	外縁:貝殻条痕、内面:織維質の工具 による擦痕。	やや摩耗氣味、 塚の村着
24	後丸唇-2-3番	IIb類	櫻井	外縁:青褐色10YR7/4、内面:にぶい、 口縁:7.5YR7/4、内面:にぶい、青褐色10YR7/4、 部	粗砂:石英・赤色粒・黑色粒 黑色7.5YR2/1、	2	外縁:貝殻条痕、内面:ヘラナデーナ、内面に化物 らしき付着物	

Tab. 8 土器観察表(2)

No.	層	種別	器種	色調	混和材	混和材の多さ	調査	備考
25	3層	田園	圓鉢	外面: 黄褐色 2.5Y3/1. 内面: 黄灰色 口縁: 2.5Y4/1.肉: 黄褐色 2.5Y3/1.	織: 白色粒・粗砂・石英		外面: ? 内面: ハナダーナ?	
26	2層	田園	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR7/6. 内面: 黄褐色 口縁: 2.5Y5/3.肉: 黄褐色 2.5Y3/1.	織: 白色粒・多・粗砂・石英	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	場の付着
27	2-3層	田園	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR7/6. 内面: 棕色 7.5YR7/6. 口縁: 4.5Y6/1.肉: 黄褐色 10YR4/4.肉: 黄色 10YR2/1.	織: 白色粒・多・粗砂・石英・多 部: 4.5Y6/1.肉: 棕色 7.5YR6/4.肉: 黑色 10YR2/4.	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	外面上に破損痕. 場の付着
28	2層	直筒	圓鉢	外面: にぶい黄褐色 10YR7/4. 棕色 口縁: 7.5YR6/6. 内面: にぶい 棕色 7.5YR6/4.肉: 黑色 10YR2/4.	織: 石英・白色粒・赤色粒	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ.	
29	3層	田園	圓鉢	外面: 黄褐色 2.5Y3/1 棕色 7.5YR7/6. 内面: 口縁: 明黄色 10YR7/6. 肉: 黄色 10YR2/1.	粗砂: 石英・白色粒・赤色粒	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ?	表面はやや草 耗
30	3層	網貝 1号	圓鉢	外面: にぶい 棕色 7.5YR6/4. 内面: 明褐色 網貝: 7.5YR5/6.	粗砂: 石英・品色粒・細砂: 品 色粒: 多.	3	外面: 織縫質の工具による擦痕. 内面: 織縫質の工具による擦痕.	
31	3層	網貝 1号	圓鉢	外面: 明褐色 BYR4/6. 内面: 黄褐色 網貝: 10YR4/2. 肉: 黄色 10YR2/1.	織: 石英・白色粒: 多.	3	外面: 織縫質の工具による擦痕. 内面: 織縫質の工具による擦痕.	
32	2層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR6/6. 内面: にぶい 黄褐色 網貝: 10YR6/4.	織: 白色粒・粗砂: 石英・ 黑色粒.		外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ.	
33	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 BYR6/6. 内面: にぶい 黄色 網貝: 2.5YR6/3.	織: 白色粒: 多・粗砂: 石英: 多・黑色粒.	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ.	
34	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR6/6. 内面: にぶい 黄色 網貝: 7.5YR5/3.	織: 白色粒・粗砂: 石英・細砂: 黑色粒.	3	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削りーナ デ.	
35	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: にぶい 黄褐色 10YR6/4. 内面: にぶい 棕色 網貝: 黄褐色 10YR6/4.	織: 白色粒・石英・粗砂: 石英・ 黑色粒・細砂: 赤色粒.	3	外面: 貝殻条痕. 内面: 織縫質の工具 による擦痕.	内面に擦痕 が認められる
36	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR6/6. 内面: にぶい 黄褐色 網貝: 10YR6/3. 黑褐色 2.5YR2/1.	織: 白色粒・石英・多・粗砂: 石 英: 多.	7	外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ.	草耗
37	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: 黄褐色 10YR2/1. 内面: にぶい 黄褐色 網貝: 10YR6/4. 黄褐色 2.5YR4/1.	織: 白色粒・石英: 多・粗砂: 石 英: 多.	4	外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ.	
38	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: 淡褐色 7.5YR4/1. 明褐色 7.5YR6/6. 網貝: 内面: 黄褐色 10YR2/1.	織: 白色粒・粗砂: 石英. 内面: 黄褐色 10YR2/1.	2	外面: 貝殻条痕. 内面: ナデ.	擦切の穿孔あり
39	複合層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR6/6. 内面: 棕色 7.5YR6/6. 網貝: 黑褐色 2.5YR5/2.	織: 黑色粒・白色的・石英・粗 砂: 石英・黑色粒. 細砂: 黑色 粒.	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ.	
40	2層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR6/6. 内面: 棕色 7.5YR6/6. 網貝: 10YR6/4.	織: 白色粒: 多・粗砂: 石英・白 色粒・品色粒・細砂: 品色粒.	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	
41	2層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR6/6. 内面: にぶい 黄褐色 網貝: 10YR6/4.	織: 白色粒: 多・粗砂: 石英・白 色粒・品色粒・細砂: 品色粒.	3	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	
42	2層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 10YR6/4. 内面: 淡灰褐色 網貝: 2.5YR5/2.	織: 白色粒: 多・粗砂: 石英・白 色粒・品色粒・細砂: 品色粒.	2	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	
43	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 10YR6/4. 内面: オリーブ品 SYR3/1.	織: 白色粒: 多・品色粒・細砂: 石英・白色粒・黑色粒・細砂: 黑色 粒.	4	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	
44	2層、KD1-2層	網貝 2号	圓鉢	外面: 棕色 7.5YR6/6. 内面: にぶい 黄褐色 網貝: 10YR6/4.	織: 白色粒: 多・粗砂: 石英・白 色粒・品色粒・細砂: 品色粒.	3	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	
45	2層	網貝 2号	圓鉢	外面: 淡褐色 7.5YR6/6. 内面: にぶい 黄褐色 網貝: 10YR6/4. 肉: 黄褐色 10YR6/4.肉: 黑褐色 2.5YR3/1.	織: 白色粒: 品色粒・粗砂: 石 英・黑色粒・細砂: 品色粒.	3	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	
46	2層	網貝 2号	圓鉢	外面: 淡褐色 7.5YR6/6. 内面: にぶい 黄褐色 網貝: 10YR6/4. 肉: 黄褐色 10YR6/4.肉: 黑褐色 2.5YR3/1.	織: 黑色粒: 白色粒・赤色粒. 粗砂: 白色粒・黑色粒・細砂: 品色粒.	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハラ削り.	
47	複合層	網貝 2号	圓鉢	外面: にぶい 黄褐色 10YR6/4. 内面: オリ エ品 SYR3/1.	織: 白色粒: 多・粗砂: 石英・白 色粒: 多・品色粒・細砂: 黑色 粒.	4	外面: 貝殻条痕. 内面: ナデ.	
48	3層	網貝 2号	圓鉢	外面: にぶい 黄褐色 10YR6/4. 内面: にぶい 網貝: 黑褐色 10YR6/3.	織: 白色粒: 多・粗砂: 石英・白 色粒・品色粒・細砂: 品色粒.	5	外面: 貝殻条痕. 内面: ハナダーナ デ.	

Tab.9 土器観察表(3)

No.	器種	器形	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
50 3号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:褐色7.5YR6/6、内面:褐色7.5YR6/6	織:白色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:貝殻条痕、内面:ヘラ削り。	
51 2号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:褐色7.5YR7/1明褐色7.5YR5/6、内面:褐色10YR2/1、肉:褐色黑色10YR2/1。	織:白色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:品色粒。		外面:貝殻条痕、内面:ナデ。	
52 SK12	肩IV類	深鉢 脚部	外面:褐色7.5YR7/6、内面:にぶい、黄褐色10YR7/4、肉:暗褐色10YR7/1。	織:白色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	4	外面:貝殻条痕、内面:ヘラ削り→ナデ。	
53 3号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:褐色7.5YR6/6、内面:にぶい、黄褐色10YR7/4、肉:黑色2.5YR2/1。	織:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	2	外面:貝殻条痕、内面:ヘラナデ。	
54 2号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:明黄色褐色10YR6/6、内面:明黄色褐色2.5YR7/6。	織:白色粒、赤色粒、黑色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:貝殻条痕、内面:ヘラ削り→ナデ。	
55 3号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:褐色7.5YR6/6、内面:にぶい、黄褐色10YR6/4、肉:黑色2.5YR2/5。	織:石英・白色粒、黑色粒、細砂:白色粒。		外面:貝殻条痕、内面:ヘラ削り。	
56 2号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:褐色7.5YR6/6灰褐色褐色10YR5/2、内面:にぶい、黄色2.5YR6/4褐色2.5YR4/1。	織:白色粒、粗砂:黑色粒、黑色粒、面:黄色2.5YR6/4褐色2.5YR4/1。		外面:貝殻条痕、内面:ヘラ削り。	
57 3号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:にぶい、黄色2.5YR6/4、内面:にぶい、黃褐色10YR5/4。	織:白色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:貝殻条痕、内面:ヘラ削り。	
58 3号	肩IV類	深鉢 脚部	外面:にぶい、黄褐色10YR6/3、内面:にぶい、黃褐色10YR5/3。	織:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	1	外面:貝殻条痕、内面:ヘラナデ→ナデ。	
59 3号	底I類	深鉢 底部	外面:にぶい、黄色2.5YR6/3、内:褐色2.5YR2/14。	織:白色粒、黑色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	4	外面:ナデ、内面:ナデ。	
60 2号	底I類	深鉢 底部	外面:にぶい、黄色2.5YR6/4、肉:黑色2.5YR2/16。	粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:ナデ、内面:貝殻条痕。	
61 2号	底I類	深鉢 底部	外面:褐色7.5YR6/6、内面:にぶい、黄褐色2.5YR5/3。	織:白色粒、多、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	9	外面:ヘラナデ→ナデ?、内面:ナデ。	
62 2号	底I類	深鉢 底部	外面:にぶい、褐色7.5YR6/4、内面:灰褐色2.5YR7/4、肉:黑色2.5YR2/13。	織:白色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:貝殻条痕及びナデ、内面:ヘラナデ→ナデ。	
63 3号	底I類	深鉢 底部	外面:にぶい、黄褐色10YR6/6、内面:にぶい、黄褐色10YR5/3。	織:白色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:貝殻条痕、内面:ヘラナデ→ナデ。	
64 3号	底II類	深鉢 底部	外面:にぶい、黄褐色10YR6/4、内面:にぶい、黄褐色10YR5/4、肉:黑色2.5YR2/9。	織:白色粒、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:貝殻条痕、内面:ヘラナデ?。	
65 3号	底II類	深鉢 底部	外面:にぶい、黄褐色10YR6/4、内面:黒褐色10YR3/1。	粗砂:石英・細砂:黑色粒。		外面:貝殻条痕、内面:ナデ。	
66 2号	底II類	深鉢 底部	外面:にぶい、黄褐色10YR6/4内面:褐色10YR3/1。	粗砂:白色粒・黑色粒、細砂:黑色粒。	3	外面:貝殻条痕、内面:ヘラナデ→ナデ。	
67 3号	底III類	深鉢 底部	外面:にぶい、黄色2.5YR6/4、内面:黑色2.5YR2/17。	織:白色粒・多、粗砂:石英・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	5	外面:貝殻条痕、内面:ヘラナデ→ナデ。	
68 2・3号,SK44	底III類	深鉢 底部	外面:にぶい、褐色7.5YR6/4、内面:にぶい、黃褐色10YR6/4オリーブ基5Y3/1。	織:白色粒、粗砂:石英・多・白色粒、黑色粒、細砂:黑色粒。	4	外面:貝殻条痕、内面:ヘラナデ→ナデ。	内面に炭化物 らしき付着物
69 SD1	底川式 型	外	外面:にぶい、黄褐色10YR7/6、内面:にぶい、織:石英・粗砂:石英・細砂:水 黄褐色10YR7/4、肉:にぶい、黄褐色10YR6/4	織:白色粒・黑色粒。	2	外面:ナデ、内面:ナデ。	

によるもの、と考えられる。

68は、底径約13cmを測る。立ち上がり部に縦位の貝殻条痕が施された後、横・斜位の貝殻条痕がやや上部に巡らされるようである。外底面は、ヘラナデ状の擦過が不規則に認められる。内面・内定面もまたヘラナデ状の擦過が認められる。内底面は、その後ナデされるようである。

2) 古墳時代 (Fig.25)

固化可能な口縁部資料は1点のみである。他にも胴部資料があった。

69は、口唇部がやや丸みを帯びており、外反する変である。その特徴からは、古墳時代でも前半期に位置づけられる。SD1出土。

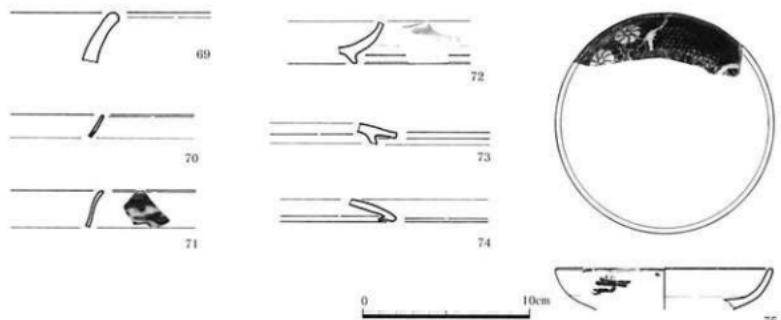


Fig. 25 土器・陶磁器S=1/3

陶磁器 (Fig. 25)

口縁部資料、底部資料のみ図化した。全てSD1出土遺物である。

70は、無文の磁器で、器厚約0.2cmで非常に薄手である。口唇部は丸みを帯び、直状口縁で、素地が接合部で剥がれる。猪口の可能性もある。

71は、染付けの端反碗である。外面文様は、口唇部直下に圓線が巡り、文様が描かれているが、文様構成などは不明確である。内面に文様はない。内外面ともに釉に細かく気泡状の汚れが目立つ。二次的な加熱を受けたものであろうか。清朝代の可能性がある。

72は、染付け碗の底部で、高台接地部のみ釉が掻き取られ、外底面まで施釉される。腰部で弱い稜が認められ、折れるようである。腰折れ部直状に文様があるが、構成など不明確である。

73は、陶製の蓋である。外面から口唇部まで施釉される。薩摩焼の可能性がある。

74は、陶製の蓋で、口唇部は折り曲げられ、玉縁状をなす。外面のみ施釉されている。薩摩焼の可能性がある。

75は、口径約13cmを測る、底の浅い染付け皿である。口唇部は、約1.5cm幅で棱花状に浅く抉りが入っており、薄い鉄釉が施されている。プロポーションは緩やかにカーブしているが、腰部に不明瞭な稜がある。外面には文様が少なく、染付けで蜻蛉(?)が上向きに描かれているほか、高台に至る部分には圓線が一条巡る。内面は文様で埋め尽くされ、緑色の花文が二輪描かれている。また、空白部をおいて、青色の簡略化した亀甲文がびっしりと描かれており、両者ともに型紙摺りである。内底面は、正確な文様構成が不明確である。破線を内面脇部文様との境界として、その内部を半割した同心円

状文で埋められるようである。時期は明治以降のものであると考えられる。

石器 (Fig. 26, Tab. 10)

76は綫長剥片で、顯著な刃こぼれをもち、若干の使用痕が観察される。素材剥片ではないと考えられる。石材は黒曜石である。産地は三船産である可能性が高い。

77はスクレイパーで、破断部と反対側に認められる主に腹面側からの打撃による二次加工によって、刃部が形成されている。

78は不定形剥片と思われる。若干の使用痕が認められる。

79は不定形剥片と思われる。図上端部は折断による可能性もある。

80は不定形剥片の先端部と思われる。両側辺に若干の使用痕がある。この剥片が折断されたのか折れた部分の使用かは不明確である。先端部の潰れは使用の結果ではない可能性がある。

81は磨製石斧の加工途中の調整剥片である可能性がある。研磨面は3面認められ、いずれも角を潰すように研磨される。

82は礫器の一部であり、大型ブロックを素材とし、二次加工によって刃部を形成している。刃部は使用後に生じたものと考えられる。

83は磨石か石皿の破片であると考えられる。破損が著しく、わずかに磨面が確認できる。一部、赤色になっているところから、火を受けた可能性がある。

7まとめ

この調査の成果として、縄文時代早期の住居跡を検出したことが挙げられる。平面形態が隅丸方形を呈することや、壁面四方に沿ってピットが巡ること

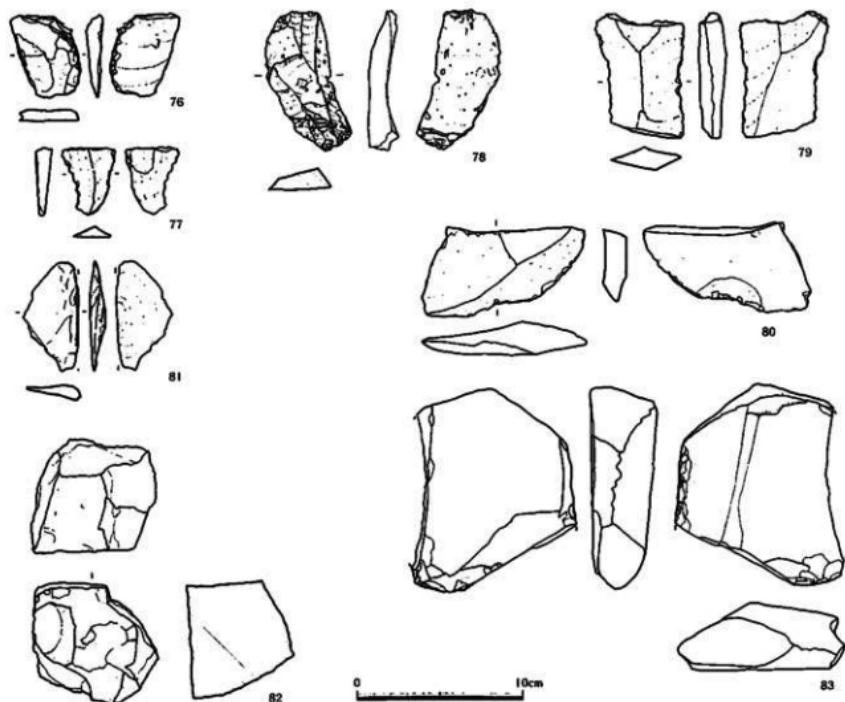


Fig. 26 石器S=1/3

Tab. 10 石器観察表

No.	出土地	種別	器種	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
76	3場	石器	スレーブー	頁岩	4.9	3.6	0.95	17.6	二次加工によって刃部を削成
77	3場	石器	剝片	安山岩	4	3.2	1	8	頭部を刃にぼれをもつ
78	SK44	石器	剝片	麻理石	8.3	5.1	1.8	46	頭部を刃にぼれをもつ
79	3場	石器	剝片	安山岩	7.4	5.3	1.7	54.1	頭部を刃にぼれをもつ
80	3場	石器	剝片	安山岩	5.35	9.9	2	77.5	頭部を刃にぼれをもつ
81	SK44	石器	細裂石片?	頁岩	6.5	3.35	9.5	14.2	
82	2場	石器	石器?磨石?	安山岩	6.9	65	6.1	368	
83	2場	石器	器種	安山岩	12	10	8.4	55	大型ブロックを磨材とし、二次加工によって刃部を削成

などからは、鹿児島県加利山遺跡で検出された住居跡¹⁰と非常に類似している。今回の調査では住居跡の検出は1軒のみであったが、調査地点の東側や南側に住居跡が存在する可能性は高いと考えられる。また、この時期の住居跡とセットで検出されることが多い、集石遺構や連穴土壙のセット¹¹は検出されなかった。しかし、本調査地点の南、約70mに位置

する難治性ウイルス疾患研究センター建設地で行われた調査では、集石遺構が検出されており、かなり広い範囲にわたって当該時期の遺構が存在していると考えられる。

出土した遺物は土器がもっとも多く、石器も少量出土している。層位的に、型式学的の先後関係を裏づける成果はなかった。また、遺構や平面的位置関係

も同様である (Fig.16)。土器の集中地区は確認できるが、各類型が重なり合うように出土しており、有意な状況は認められない。土器が破片資料の多いこと、不定形土器の周りに集中していることなどからは、自然地形の凹地に土器が堆積したものとみなした方がよさそうである。あるいは、今回の分類は、土器が小破片のため、文様要素によって行った。その分類方法に問題がある可能性も否めない。

第3層のいわゆるアカホヤからの遺物出土も少なくないことが注意される。本地点におけるアカホヤ層が2次堆積の可能性のあることも含めて、今後検討していきたい。

土器のほとんどは、「広義の」前平式土器の範疇であるが、施文方法にはかなりのバリエーションが認められる。これらの多様さが何に対応するものか明らかにする事はできなかった。今後の課題である。

「広義の」前平式土器（研究者が最大公約数的にもっている前平式の型式概念）の編年は、これまで以下のように細分されている。河口貞徳が「前平B式→前平式」の1～2段階に¹⁷、長野真一が「岩本タイプ→永野タイプ→加栗山タイプ」の3段階に¹⁸、新東見一が「岩本式→前平式→（前原遺跡段階）→知覧式」の3～4段階に¹⁹、本田道輝が「前平式→南州神社タイプ→格ノ原タイプ」の3段階に²⁰、高橋信武は、「岩本タイプ→前平B式（統岩本タイプ）→永野タイプ→加栗山タイプ」の4段階²¹である。

本遺跡の場合、高橋編年²²に照らし合わせると、本遺跡のI類（岩本タイプ）→IIa類・III類（統岩本タイプ：前平B式）→IIb類（永野タイプ）の三時期が認められ、前平B式→永野タイプへの二時期を中心とする。本遺跡のIIc類は、永野タイプ（本遺跡のIIb類）の時期に存在するだろうとの高橋提言があり²³、本調査でも首肯される。

しかしながら、本遺跡出土の土器群があまり知らないことは確かである。例えば、前平B式段階には、貝殻条線を上下に、さみだれ状に多条に施すもの (Fig.18-13・14)。IIc類のように数列の貝殻殻頂部の压痕文を巡らせるもの (Fig.19-21・22) などである。永野タイプの時期では、「押引状文」を下から上へと行い、縦位に二列巡らすもの (Fig.19-15)。上下段の「押引状文」を互い違いに配列するもの (Fig.19-20) などが認められ、この時期の多様な文様バリエーションを知る資料となった。また、角筒土器の外面コーナー部に、ヘラ描き・貝殻刺突文を施さない点なども旧知の角筒土器よりも簡素である。さらに、角筒土器は、地文となる貝殻条

痕を、横位に丁寧に施すものが比較的多いが、本遺跡の例ではやや煩雑な地文で調整され、地文であるのか貝殻条線のように文様を意識したようなものなのか不明確なところが多い。本遺跡の角筒土器が明瞭なコーナーを形成しないことと関連づけられるなら、これがより未発達的な胴部の条線として位置づけられる可能性がある。また、胴部地文上に描く条線は、直線文系の条線のみで、曲線文系の条線はなかったことなど、型式学的に古く位置づけられると考えられる要素も認められた。

地点は異なるが、本地区（桜ヶ丘団地I-10区）から南東方向に位置するE-8・9地区では、曲線文系条線が比較的多く、新しい要素をもっている土器群と出土している²⁴。

底部については、コーナー部の調整の手法から便宜的に分けたが、III類の場合、後出の型式である「知覧式（＝加栗山タイプ×格ノ原タイプ×加栗山式）」に最も盛行する手法であるが、前平式系の古段階から出現することは類例遺跡からも窺えるようである。後出に盛行する要素である以上、前平式系のなかでも新しい要素に属すると考えてよいだろう。しかしながら、接合資料が認められないため、どの文様バリエーションの土器のものであるかは確言できない。

以上、本遺跡の縄文土器の縦年位置づけは、縄文早期初頭～前業の、前平式系の永野タイプ²⁵の古段階までに取まるものである、と結論づけられる。

ちなみに、内面調整については、1) 植物質の先端の柔らかい工具によるもの、2) ヘラ状の工具によって削りあるいは強いナデによって凹面を形成するものなど(本報告では削りという表現を用いている)、大きくこの3種が認められるが、本遺跡においては、3)の場合、外面胴部に貝殻条線を用いている場合が多く、両者の関連性が窺われる。この場合、3)の手法によって器厚を薄くすることと外面を飾りつけることに何らかの関連があれば興味深い。また、円筒か角筒かあるいはその中間形態（口縁部が角形で胴部付近は円形）という形態差における調整の差異をあらわすのかもしれないが、全形が窺える資料が少ない以上、この点については確言できない。

石器は、縄文時代早期に属するものと考えられるが、組成には石器が含まれていなかった。調査範囲の狭さの反映かもしれない。

古墳時代の土器は、固化すべきものは1点しかなく、詳細はよく分からず。外反する壺の口縁部であり、古墳時代でも前半段階に位置づけられよう。他にも胴部片らしきものが数点認められるが、数量

的に少ない。

陶磁器は、近代以降の遺物がほとんどであると考えられるが、1点のみ中国製ではないかと考えられるものもあった。

註

- 1) 坪根伸也 1988「第3章 鹿児島大学宇宙団地I-8区（医学部臨床研究棟建築地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅲ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 2) 砂田光紀・松永幸男・中村直子 1990「第2章 鹿児島大学宇宙団地E-8・9区（MR-I-CT装置棟建設地）における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』V 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 3) 戸崎勝洋ほか 1981「加栗山遺跡・神ノ木山遺跡」鹿児島県教育委員会
- 4) 新東晃一 1989「早期九州貝殻文系土器様式」『縄文土器大観』1 小林達夫編
新東晃一 1999「南九州縄文早期文化の成立の諸要因」『第6回企画展示 ドキドキ縄文さきがけ展 図録』指宿市教育委員会
- 5) 長野真一 1984「第V章まとめ」『上祓川遺跡群』鹿屋市教育委員会
- 6) 前迫亮一 1994「南九州縄文時代早期前半の居住活動に関する一考察」『大河』第5号 大河同人
- 7) 河口貞徳 1955「鹿児島県における貝殻条痕土器」「石器時代」1号 石器時代文化研究会
河口貞徳 1989「吉田式と前平式のその後について」『鹿児島考古』第23号 鹿児島県考古学会未報告
- 8) 註5) に同じ。
- 9) 註4) に同じ。
- 10) 本田道輝 1986「鹿児島県考古学の諸問題-縄文時代-」『鹿児島考古』第20号 鹿児島県考古学会
- 11) 高橋信武 1998「前平式土器について」『鹿児島考古』第32号 鹿児島県考古学会
- 12) 註11) に同じ。
- 13) 註11) に同じ。
- 14) 砂田光紀・松永幸男・中村直子 1990「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」V 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 15) 註5) に同じ。

図 版

PL. 1 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



東壁北側

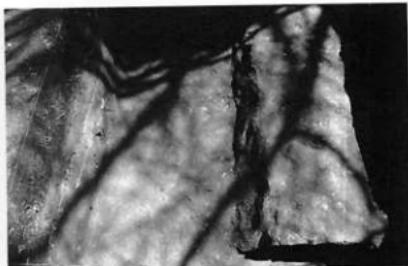


縄文時代早期住居跡
(SK44)



層位横軸 (KD-2)

PL. 2 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査



- 一段目左 1 トレンチ周辺
- 一段目右 1 トレンチSDI
- 二段目左 1 トレンチ 4層上面検出状況
- 二段目右 1 トレンチ西壁
- 三段目 2 トレンチ周辺
- 四段目右 2 トレンチ掘削状況
- 四段目左 2 トレンチ東壁



PL. 3 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査



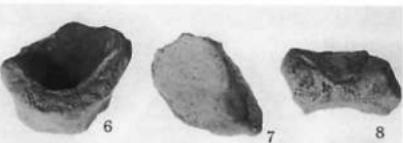
1～5・9～12外面



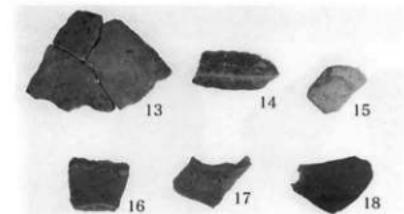
1～5・9～12内面



6～8外面



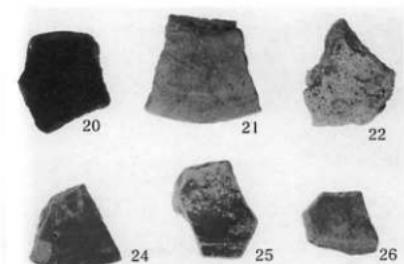
6～8内面



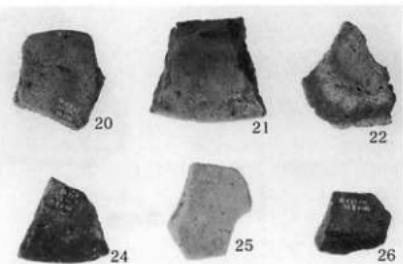
13～18外面



13～18内面

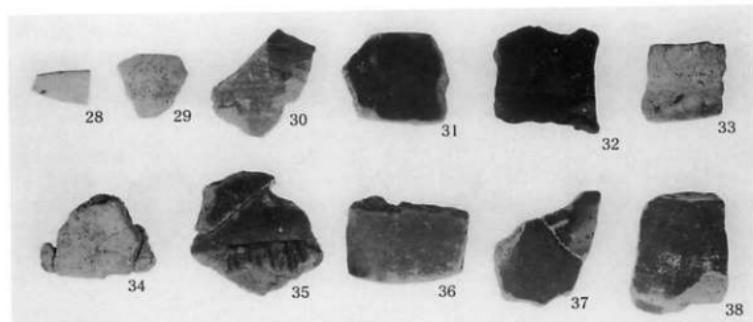


20～26外面

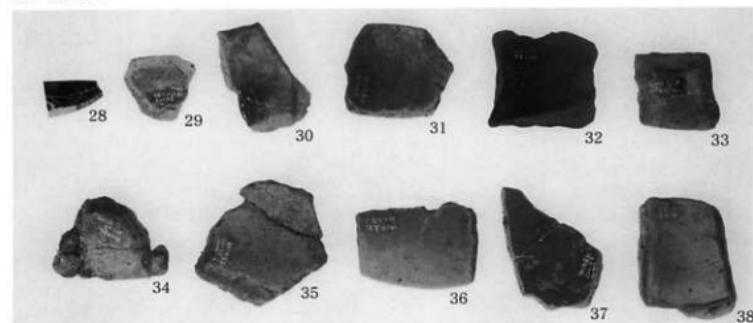


20～26内面

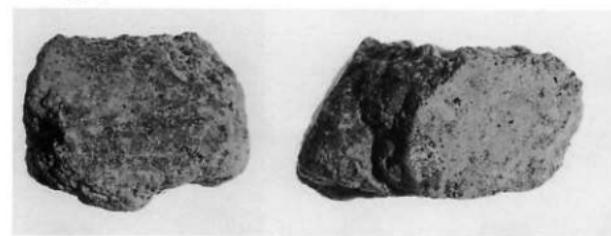
PL. 4 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査



28~38外面



28~38内面



19正面

19侧面



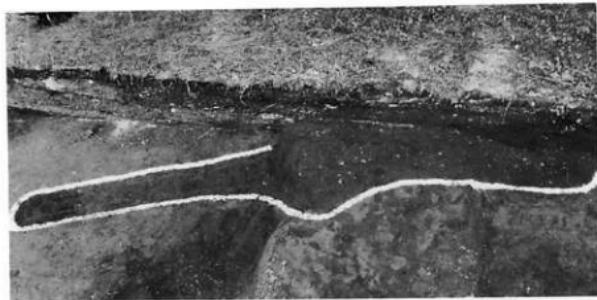
23外面

23内面

PL. 5 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



PL. 6 桜ヶ丘団地1・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



SKI検出状況



SDI検出



上 SDI検出、右 SDI完掘



PL. 7 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



SD2 左検出状況、右完掘



SK2・3・4完掘

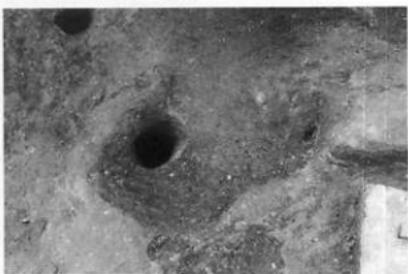
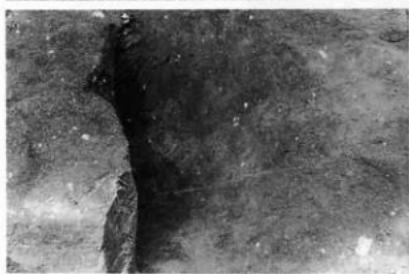


SK5～11完掘

PL. 8 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



右 SK12完掘，左 SK13完掘
↓右 SK14完掘 左 SK15完掘



SK17~30完掘



SK32・35完掘

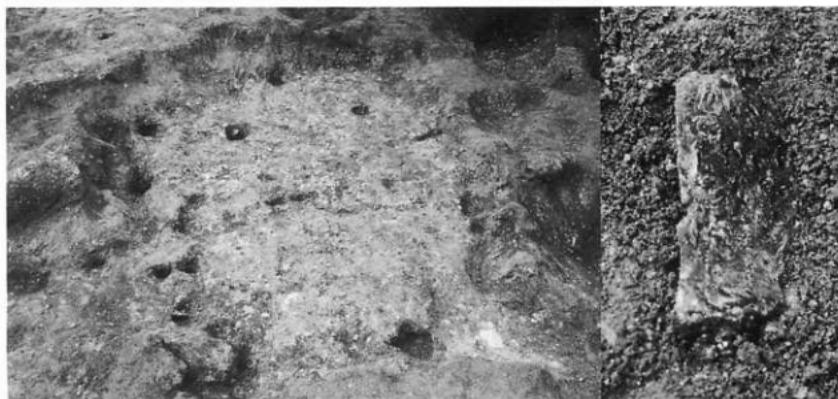
PL. 9 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



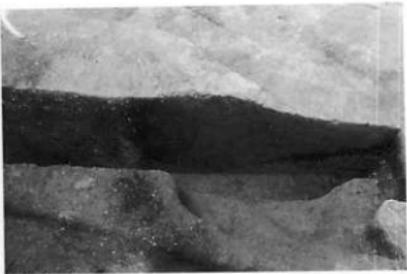
SK33・34・36・37・38完掘



右・右下 SK44完掘
左下 SK44出土黒曜石製縫
長剥片



PL.10 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



上段左 KDI (層位横軸)
上段右 KDI断面



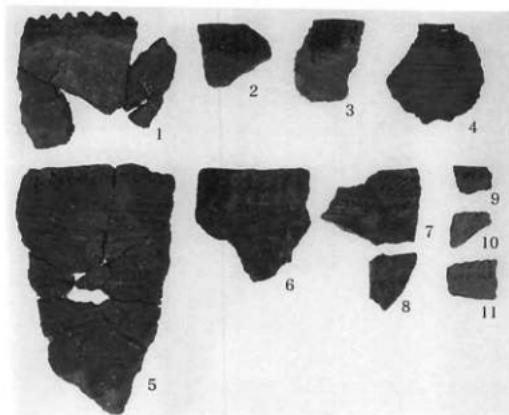
KD2平面



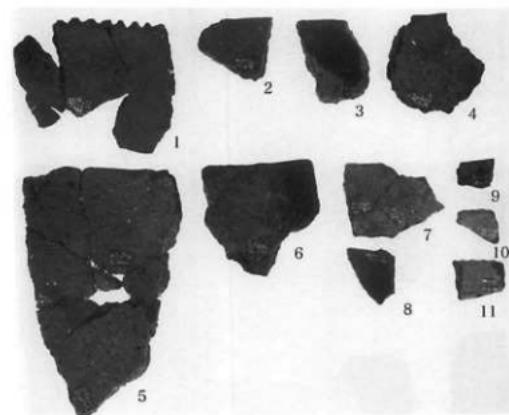
調査終了状況



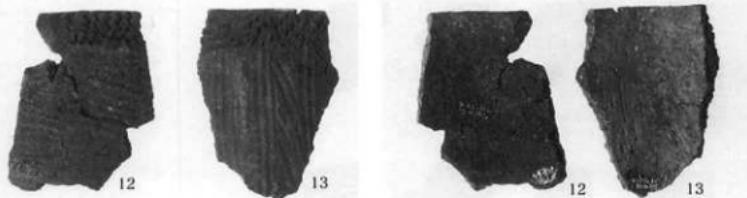
PL. II 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



I・IIa類 (表)



I・IIa類 (裏)



IIa類 (表)

IIa類 (裏) IIa類 (表))

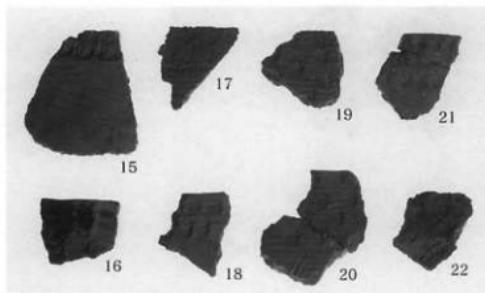
PL.12 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



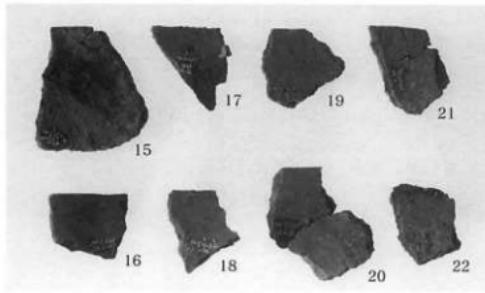
IIa類 (表)



IIa類 (裏)



II b + II c類(表)



II b + II c類(裏)

PL.13 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



II b 類 (表)



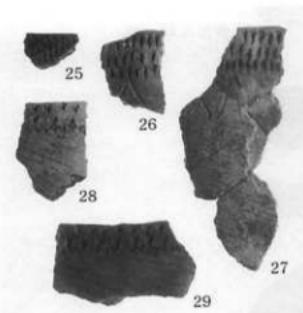
II b 類 (裏)



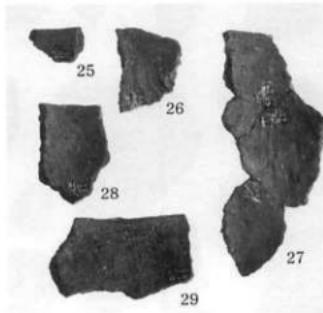
II b 類 (表)



II b 類 (裏)

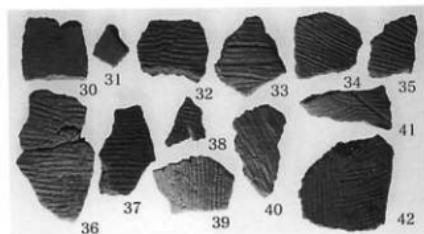


III 類 (表)

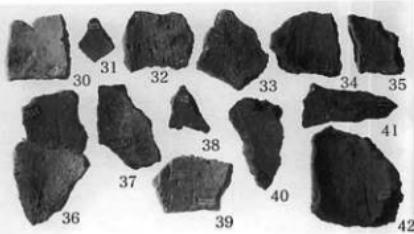


III 類 (裏)

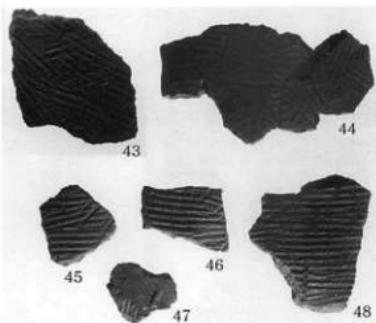
PL.14 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



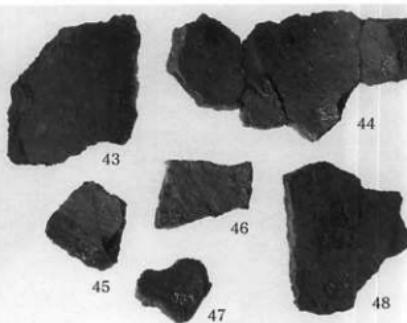
胴部I・II・III類（表）



胴部I・II・III類（裏）



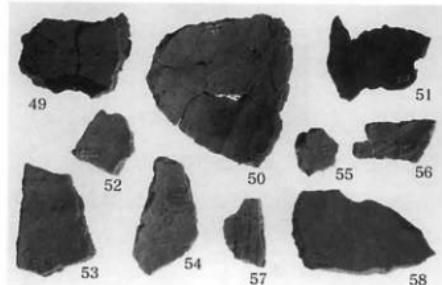
胴部III類（表）



胴部III類（裏）

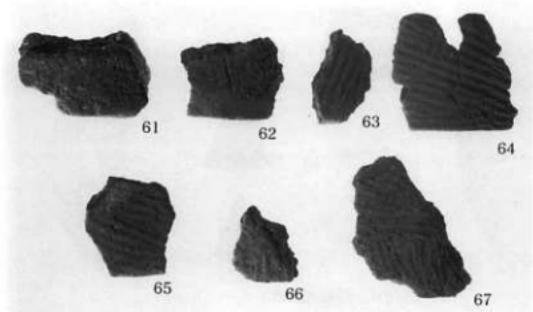


胴部IV類（表）

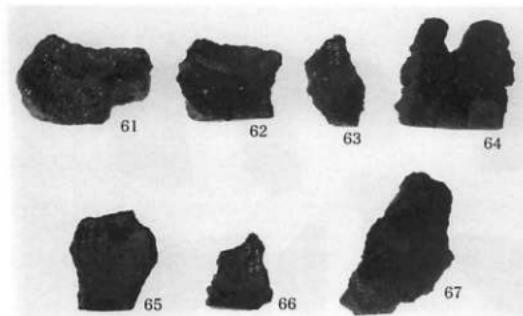


胴部IV類（裏）

PL.15 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



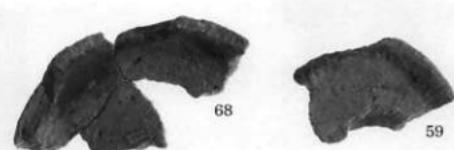
底部I・II・III類(表)



底部I・II・III類(裏)



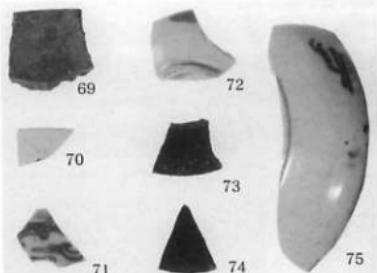
底部I・III類(表)



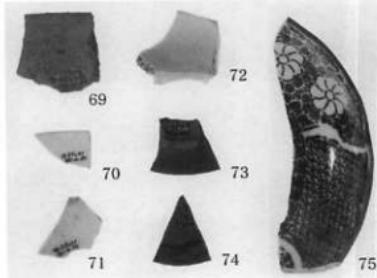
底部I・III類(裏)



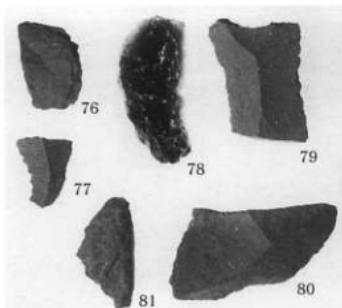
PL.16 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



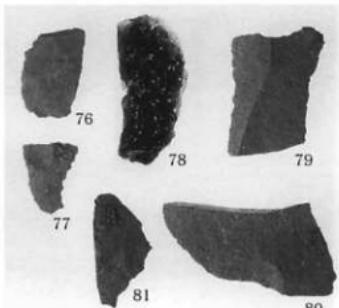
成川式・陶磁器（表）



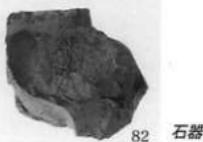
成川式・陶磁器（裏）



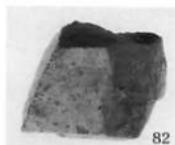
石器（表）



石器（裏）



石器



石器



石器（表）



石器（裏）

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんばうじゅうよん						
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報14						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	中村直子・大西智和（編）						
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室						
所在地	〒 890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL 099-285-7270						
発行年月日	西暦 2000年3月						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査因
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 こおりもとだんち 郡元団地 J-K-4区	かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっぽうもと 一丁目21番30号	4620 1 34 11	31 32 48	130	0310 ~ 0330	7	建物建設
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 さくらがおかだんち 桜ヶ丘団地 I-J-10区	かごしましこうらがおか 鹿児島市桜ヶ丘 さくらがおか 八丁目35番1号	4620 1			1990516 ~ 1990615	370	受水槽設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 J-K-4区		古墳 中近世	溝状遺構	古墳時代の土器 須恵器 石器 陶磁器			
鹿児島大学構内遺跡 桜ヶ丘団地 I-J-10区		縄文 中近世	住居跡	土器 石器 陶磁器			

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 14

2000 年 3 月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号

TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島市南栄 3 番 1 号

TEL 099-268-8211

Kagoshima University Archaeological Research Center Report Vol.14

CONTENTS

Chapter

1 Report of archaeological research In fiscal year 1998	1
2 The test excavation at Area J·K-4 in Sakuragaoka Campus	5
3 Reports of rescue surveys	11

Appendix

Report of excavation at Area I·J-10 in Sakuragaoka Campus	21
---	----

Published by

Kagoshima University Archaeological Research Center

1999